



Teaching and Learning Management
FACTBOOK 2022



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

金沢大学
教学マネジメントセンター





目次

CONTENTS

I . はじめに

1. 巻頭言 01

II . 大学全体レベル

1. 金沢大学におけるアセスメントプラン 03
2. 金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS) 03
3. FD・SD 活動の枠組と実績 06
4. 教学 IR, モニタリング・レビューの枠組と実績 08

III . 学位プログラムレベル

1. 3つのポリシーの体系的な再整備 19
2. 学位プログラムのモニタリング・レビュー 22
3. 卒業・修了者アンケート結果の概要 23
4. 「学びの計画書」を通じた DP 達成度可視化 24

IV . 授業科目レベル

1. シラバス記載項目の改善充実 25
2. 授業評価アンケートシステムの刷新 26

V . 文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) に関する意識調査

1. 意識調査 (学生版) 結果概要 29
2. 意識調査 (教員版) 結果概要 32
3. 考察と展望 34

VI . 参考資料 (『教学マネジメント指針』(中央教育審議会大学分科会) 別紙 2・3)

1. 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報について (別紙 2) 37
2. 情報公表について (別紙 3) 41

I はじめに



巻頭言

金沢大学では、令和3年4月に教学マネジメントセンターを創設しました。令和2年1月に公表された『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会）に沿って、大学全体レベル・学位プログラムレベル・授業科目レベルの各レベルにおける教学マネジメントを強化すべく、教育担当理事のもとに新しい組織を設置し、その取組を進めています。特に、同指針では、教学マネジメントを支える基盤として「FD・SDの高度化と教学IR体制の確立」を求めていることに着目し、エビデンスに基づく教育マネジメントを進める観点から、教育・学修に関するデータの収集・分析・共有に関し、今まで以上に力を注いでいく必要があります。

そこで、教学マネジメントセンターでは、新たに、『教学マネジメント FACTBOOK 2022』を作成し、金沢大学の教育と学修に関する基本データを整理・共有する取組に着手しました。本冊子は、その第一歩に当たり、令和4年度国立大学経営改革促進事業における大学院改革プロジェクトの採択を受けて刊行するものです。

これまでの金沢大学の教育改革は、平成20年度の学域・学類制の導入に始まり、平成28年度の国際基幹教育院の設置、平成30年度の国際基幹教育院総合教育部の設置を通じたレイトスペシャライゼーションの導入、令和3年度入学者選抜から全学類での後期日程廃止といった一貫した教育改革を通して、学修者本位の教育の理念のもと、伝統的なディシプリンを超えた柔軟性ある教育プログラム提供と、学生が自主的に進路選択できる機会提供を図ってきました。さらに、令和2年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」では、第4の学域である「融合学域」の設置と全学域学生を対象とした「先導STEAM人材育成プログラム」の開設を通じた、文理融合・分野横断によるSTEAM教育の推進によるイノベーション人材育成に邁進しています。

高等教育機関として、どのような場面にあっても、教育成果と学修成果を把握・確認しながら、さらなる向上を図っていくことが求められています。『教学マネジメント FACTBOOK 2022』の刊行を契機に、今後とも、教学マネジメントの取組に、ご理解とご支援を賜れば幸いです。

令和5年3月

金沢大学 教学マネジメントセンター

II

大学全体レベル



II 大学全体レベル

金沢大学では、大学全体レベルの教育・学修目標として、平成26年度に採択された「文部科学省・スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」の取組において、金沢大学〈グローバル〉スタンダードを策定し、人材育成の中心に据えていることが特徴である。

1. 金沢大学におけるアセスメントプラン

本学は、『金沢大学憲章』において「専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成すること」を掲げ、平成28年度には、世界で活躍する「金沢大学ブランド人材」の育成のための本学独自の教育方針である「金沢大学〈グローバル〉スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard, 以下「KUGS」という。）」を策定した。この大学全体レベルの教育方針に則り、全学類において「3つのポリシー」を通じた教育・学修目標の具体化を行っている。

令和3年4月に新たに設置された教学マネジメントセンターでは、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会）が示す「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」の各レベルに応じた教学マネジメントを徹底するため、学修成果や教育成果を定量的または定性的なエビデンスに基づき評価することを目的に、下表のようなアセスメントプランを提示した。当該アセスメントプランに沿って、学修目標を具体的に設定し、学生に明示しながら、当該学修目標を達成できるように授業科目・教育課程を編成・実施するとともに、学修成果・教育成果の把握・可視化に取り組んでいる。

図表 II-1 金沢大学におけるアセスメントプラン概要一覧

項目 レベル	教育・学修目標	改善充実のための機会 (FD・SD)	アセスメントツール (教学IR)
大学全体レベル (マクロ)	金沢大学 〈グローバル〉スタンダード (KUGS)	全学FD 新任教員説明会	学生生活実態調査 卒業・修了後アンケート
学位プログラムレベル (ミドル)	(各学類、専攻で定めた) ディプロマ・ポリシー (DP)	全学FD 学域・学類、研究科FD	卒業・修了者アンケート DP達成度自己評価
授業科目レベル (マイクロ)	(シラバスに明記された) 学修目標	全学FD 学域・学類、研究科FD 新任教員説明会 CLA研修	授業評価アンケート 成績評価分布

2. 金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS)

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組み、北陸さらには東アジアにおける「知の拠点」として、グローバル化の進

む世界に向けて情報を発信することとし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定している。

この金沢大学憲章では、教育について次の2点を謳っている。

- 金沢大学は、各種教育機関との接続、社会人のリカレント教育、海外からの留学、生涯学習等に配慮して、多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施する。
- 金沢大学は、学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する。

こうした本学の理念・目標の実現へ向けての大きな改革の一つとして、平成18(2006)年度に従来の教養教育を、導入教育や基盤教育などの幅広い教育内容を含む「共通教育」ということばに切り替え、教養的科目から「共通教育科目」に名称変更した。

平成28(2016)年4月から始まった第3期中期目標には、「主体性を涵養する教育により、学士課程においては、専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに、大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する。」と明記した。この目標を実現するために、国際基幹教育院を創設し、世界で活躍する「金沢大学ブランド人材」の育成のための本学独自の教育方針である「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」を制定した。

学士課程におけるKUGSは次の6項目で構成している。

1. 自己の立ち位置を知る：

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力

2. 自己を知り、自己を鍛える：

自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

3. 考え・価値観を表現する：

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力

4. 世界とつながる：

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力

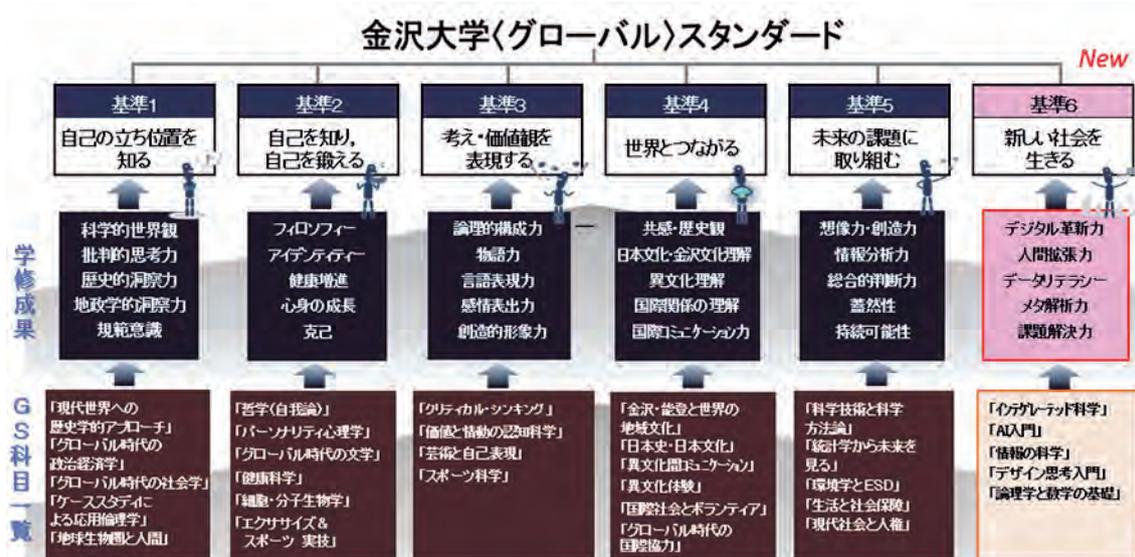
5. 未来の課題に取り組む：

科学技術の動向，自然環境変動，持続可能性などの多角的視座から，地球と人類，国際社会と日本の未来を総合的に予測し，未来の課題に取り組んでいく能力

6. 新しい社会を生きる：

Society 5.0 において幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え，多様な他者との協働により未知の社会的課題を解決に導くための能力

本学は，この KUGS を基軸とした，学士課程教育の基盤をなす授業科目である Global Standard 科目（GS 科目）および Global Standard 言語科目（GS 言語科目）を中心とする体系的なカリキュラムを実施している。



図表 II-2 金沢大学<グローバル>スタンダード（学士課程版）と GS 科目一覧

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) については，上記の学士課程版に加え，大学院課程における KUGS が以下のとおり定められている。令和4年度からは，大学院学生のトランスファラブルスキルの修得等を目的として，大学院 GS 基盤科目及び大学院 GS 発展科目が全研究科の大学院学生対象に提供されている。

(a) 自文化に対する自覚と異文化への理解だけでなく国際社会で活躍しようとする気概すなわちグローバルマインドと，(b) 明確な倫理的思考の二つの観点において，学士課程<グローバル>スタンダードを高度先鋭化したものとして本学大学院課程<グローバル>スタンダードを定める。

すなわち，本学大学院は，学士課程<グローバル>スタンダードにおいて謳われている，

(1)「自己の立ち位置を知る力」、(2)「自己を知り、自己を鍛える力」(3)「考え・価値観を表現する力」、(4)「世界とつながる力」、(5)「未来の課題に取り組む力」、(6)「新しい社会を生きる力」という6つの能力・体力・人間力を大学院カリキュラムの学修を通して、さらに高度先鋭化させ、強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考の二つの観点から、創造的な視点と粘り強い交渉力、強い統率力と確かな実践力をもって、人類の未来を切り拓く使命に果敢に挑戦する高度専門人材を育成する。

1. 強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考：

今後、人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力

2. 創造性・交渉力・統率力・実践力：

解決困難な課題にも、革新的なアイデアと粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を打開する能力



図表 II-3 大学院 GS 基盤科目及び大学院 GS 発展科目の概要

3. FD・SD 活動の枠組と実績

令和3年4月に、教学マネジメントセンターが設置されたことに伴い、教育担当理事及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のもと、全学的視点に立ったFD・SD活動を行いながら、部局FDとの協働・連携・支援を行っていく必要がある。このため、「全学FD・SD」と「部局FD」の関係性について事項整理しながら、「全学FD・SD」で担うべきこと、「部局FD」で担うべきことを明確化することとした。

【「全学 FD・SD」の役割と基本メニュー】

①「全学 FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項，遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働，教職学協働のための場づくり

②「全学 FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

図表 II-4 全学 FD・SD の年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

【「部局 FD」の役割と基本メニュー】

①「部局 FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム，学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

②「部局 FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ，部局主催での FD 活動について，以下の二つの区分に整理した。

- ア) 個別テーマ型 FD・・・各部局における主要事項の理解と共有，各部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として，当該部局が独自のテーマ設定により実施する FD
- イ) 統一テーマ型 FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的として，教学マネジメントセンター等が連携・支援しながら実施する FD

(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告，機関別認証評価で求められる学位プログラム単位の DP・CP，カリキュラム・マップ，カリキュラム・ツリーに関する点検・見直しなど)

令和4年度においては，FD委員会及び教学マネジメントセンターが企画実施する定例的な全学FD研修会に加え，先導STEAM人材育成プログラム（KU-STEAM）が本格実施されたことから，教職学協働型の KU-STEAM ランチョンセミナーを新たに企画実施した。また，高大接続コア・センターと共同主催にて「探究・STEAM フェスタ」という高校生・高校教員と大学生・大学院学生・大学教員が集う対話の場づくりを設けることができた。これらの取組は令和5年度以降も更に発展充実していく予定である。

本学では，各種セミナー・シンポジウム等を「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画として学外に広く公開するとともに，録画データ及び配布資料を学内ポータルサイトに公開・配信している。なお，令和4年度下半期からは対面実施が増えつつあり，対面とオンラインそれぞれのメリットを活かしながら効果的なFD機会を提供していきたい。

令和4年度全体のFD・SD実績は以下のとおりである。

図表 II-5 令和4年度FD・SD実績の概要

内 容	開催月日	参加者数
新任教員説明会	4月4日（月）午前の部 4月4日（月）午後の部	57名 111名
KU-STEAMランチョンセミナー	4月下旬～11月上旬 計14回開催	426名
ピア・サポート入門ミニセミナー 「ピア・サポートを始めるために知っておくこととは」	7月20日（水）	10名
全学FD研修会 「ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現」	8月8日（木）	131名 (学外公開)
全学FD研修会 「金沢大学EMI科目（英語による科目）の現状と今後の展望 ---SGU 最終年に向けて今できる科目開講のアイデア---	9月28日（水）	87名
全学FD研修会 FD活動報告書成果発表会	10月29日（金）	61名
高大接続ラウンドテーブル特別企画 「探究・STEAMフェスタ2022 ～高校生の探究心に火を灯す～」	12月11日（日）	83名 (学外公開)
教学マネジメントセミナー2022 「教学マネジメントのあるべき姿を考えよう！ ～自律的学修者を育てるために～」	12月22日（木）	136名 (学外公開)
令和4年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」 採択校合同シンポジウム	3月14日（火）	127名 (学外公開)

4. 教学IR，モニタリング・レビューの枠組と実績

4.1 卒業・修了後アンケートの定期的実施

令和3年度卒業・修了後アンケートについて，金沢大学IDを活用し，電子メールでアンケートWEBサイトに誘導する方法で初めて実施した。

令和4年3月30日～5月10日の回答期間において，644件の回答があり，そのうち，

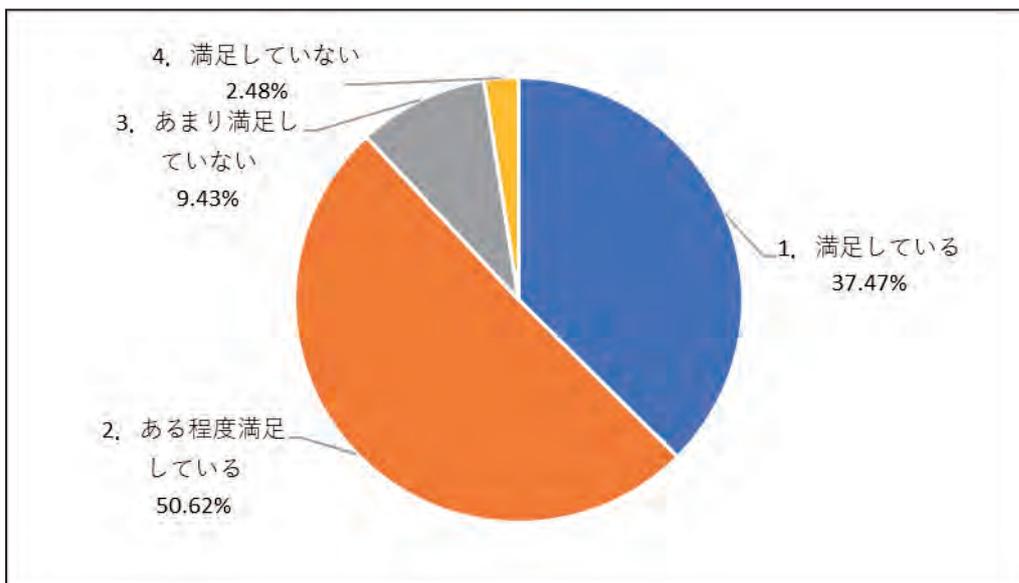
有効回答数は 485 件（対象者 43,960 名，回答率 1.1%）であった。その回答者内訳は以下のとおりである。今後，継続的に実施することで，金沢大学 ID を活用した当該アンケートを充実させることができると考えている。

	【卒業・修了年度】				総計
	2001～2005	2006～2010	2011～2015	2016～2020	
1.人間社会学域	0	0	6	111	117
2.理工学域	0	0	2	144	146
3.医薬保健学域	0	0	4	61	65
4.文学部	0	2	0	0	2
5.法学部	0	2	0	0	2
6.教育学部	1	1	0	0	2
7.医学部	1	5	0	0	6
8.人間社会環境研究科	0	3	6	7	16
9.自然科学研究科	8	5	8	22	43
10.医薬保健学総合研究科	0	0	4	39	43
11.先進予防医学研究科	0	0	0	1	1
12.法務研究科	0	0	0	4	4
13.文学研究科	1	0	0	0	1
14.教育学研究科	5	1	2	1	9
15.社会環境科学研究科	4	1	0	0	5
16.医学系研究科	5	8	9	1	23
総計	25	28	41	391	485

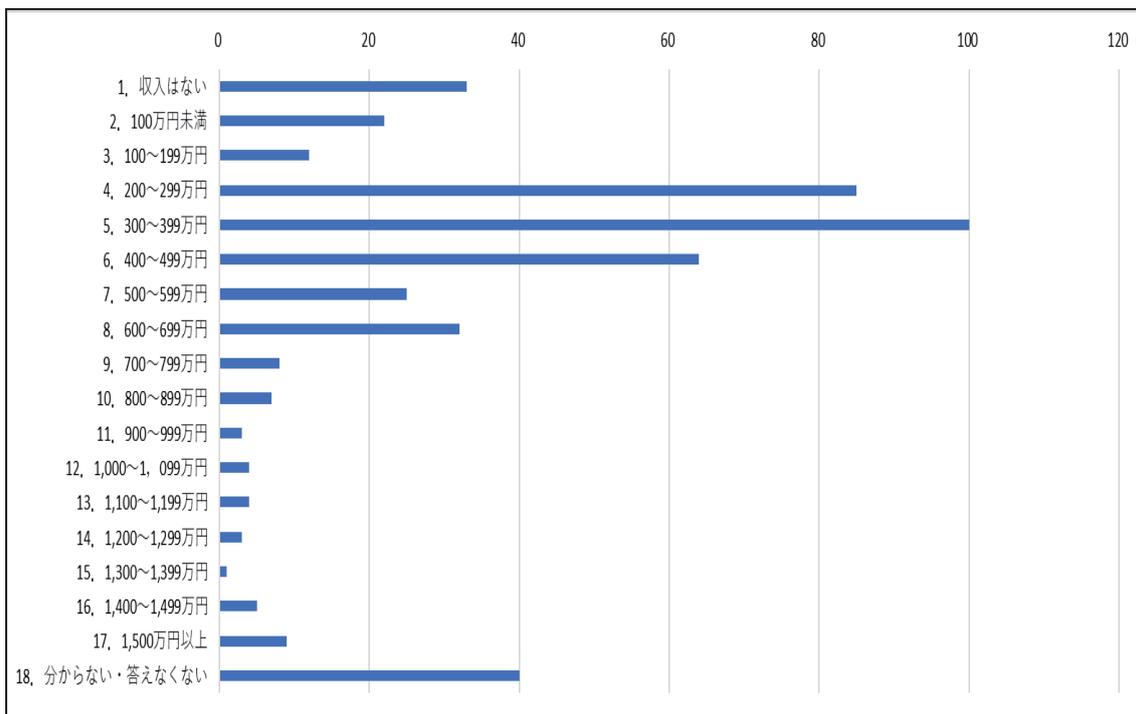
4.1.1 現在の職種（N=403）

	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	4. 技能職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	11. アルバイト・派遣社員	その他	総計
1.人間社会学域	52	1	9	2	14	1	16	2	1	4	102
2.理工学域	5		71	1	2	17	4			1	101
3.医薬保健学域	1	1	16	1	2	3	3	22	1	2	52
4.文学部	1				1						2
5.法学部	2										2
6.教育学部	1				1						2
7.医学部			4	1						1	6
8.人間社会環境研究科	1	2			2	5		3			13
9.自然科学研究科	1		15	1	7	15			1		40
10.医薬保健学総合研究科		1	5	3	9	9		11	1	1	40
11.先進予防医学研究科			1								1
12.法務研究科		1						1	2		4
13.文学研究科	1										1
14.教育学研究科	3				4	2					9
15.社会環境科学研究科					3	2					5
16.医学系研究科		1	3	1	5	3		10			23
総計	68	7	124	10	50	57	23	49	6	9	403

4.1.2 現在の職業満足度 (N=403)



4.1.3 現在の個人年収 (N=457)



4.1.4 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い (N=427)

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「課題を解決できる思考力と判断力」「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」が特に高い結果となっている。

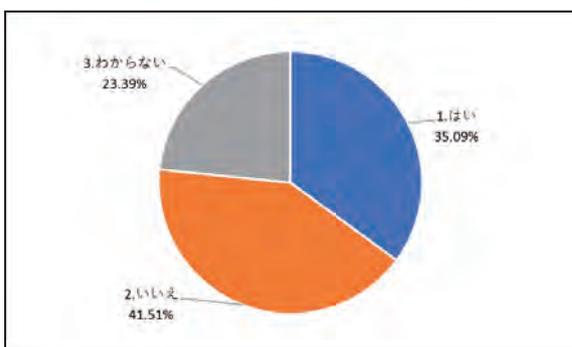


(注)

- A 大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能
- B 社会や経済に関する幅広い一般教養的知識
- C 国際人として活躍するために必要な基礎的知識や英語力
- D 目標に向かってチームや集団を動かし、リーダーシップを発揮する能力
- E 他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力
- F 自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力
- G 世間の常識や既成概念にとらわれず、自ら情報を分析し、新しい考え方を提案する力
- H 適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力
- I 課題を解決できる思考力と判断力
- J 社会の問題や出来事に広く関心をもち、自分の携わる職業について将来を展望する力
- K 職業人として、生涯にわたり自己学習する力

4.1.5 大学・大学院における学び直しの希望の有無 (N=436)

大学・大学院における学び直しの希望が一定規模存在 (35.09%) することが分かり、学び直し向けの効果的な情報発信等を行っていく必要があると考える。



図表 II-6 令和3年度「卒業・修了後アンケート」結果概要

4.2 就業先企業アンケートの定期的実施

『教学マネジメント指針』において「卒業生に対する評価」「卒業生からの評価」が求められているほか、令和3年度運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」における「カリキュラム編成上の工夫の状況」で「卒業生に対する追跡調査や雇用主等に対する卒業生の評価に関する調査を行い、その結果を教育改善につなげる組織的取組を実施している」が指標となっている。「卒業・修了後アンケート」及び「就業先企業アンケート」の組織的実施が、大学の教育成果や学修成果を検証するための必要不可欠なものとなっている。

「卒業・修了後アンケート」については、令和3年度から定期的実施を始めており、今回、新たに「就業先企業アンケート」の定期的実施を開始した。

【具体的な対応】

キャリア支援室（旧・就職支援室）では、従来、就業先企業アンケートを定期的実施していなかったが、教学マネジメントセンターと協働する形で、定期的実施する体制を構築した。大学における教育成果に関する設問を就業先企業アンケートと卒業・修了後アンケートにおいて設けることを通して、企業側の視点と卒業生の視点を比較対照することも加味した。

【実施方法】

実施対象：令和4年12月17日（土）18日（日）及び令和5年1月21日（土）22日（日）

開催の業界・企業研究会参加企業 320社

実施方法：WEBアンケート

回答社数：85社（回答率26.6%）

【令和4年度 金沢大学 就業先企業アンケート回答結果】

1. 貴事業所の概要についてお伺いします。

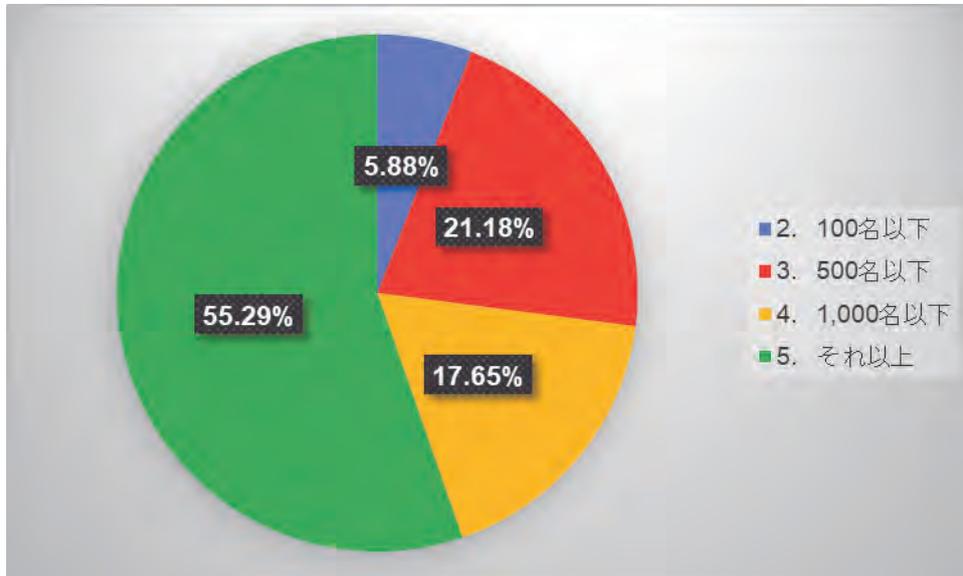
問1 本社又はご回答者の所属する事業所の所在地についてお答えください。

1. 北海道・東北 2. 関東 3. 甲信越 4. 富山県 5. 石川県 6. 福井県
7. 東海 8. 関西 9. 中国・四国 10. 九州・沖縄 11. 外国

本社又は事業所の所在地	回答数
2. 関東	22
3. 甲信越	3
4. 富山県	10
5. 石川県	28
6. 福井県	5
7. 東海	12
8. 関西	4
9. 中国・四国	1
総計	85

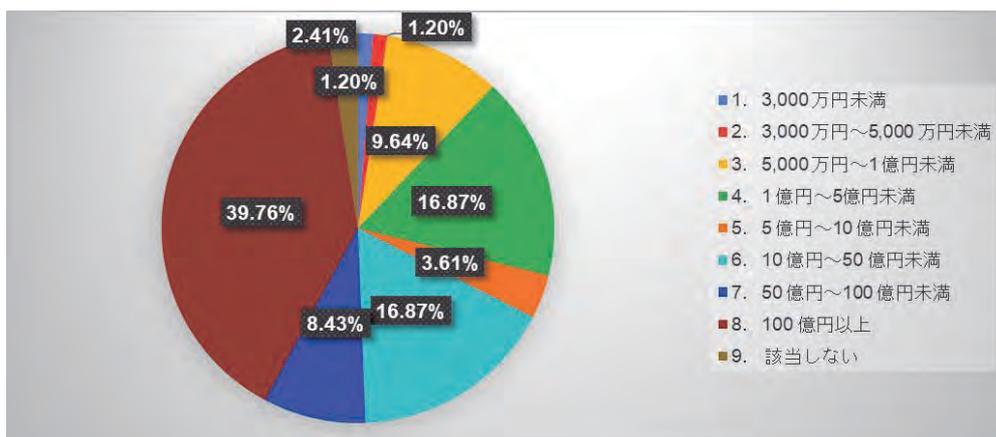
問2 従業員・職員数（企業の場合は貴社全体の人数）についてお答えください。

1. 50名以下 2. 100名以下 3. 500名以下 4. 1,000名以下 5. それ以上



問3 資本金についてお答えください（企業の場合のみお答えください）。

1. 3,000万円未満 2. 3,000万円～5,000万円未満 3. 5,000万円～1億円未満
 4. 1億円～5億円未満 5. 5億円～10億円未満 6. 10億円～50億円未満
 7. 50億円～100億円未満 8. 100億円以上 9. 該当しない



問4. 貴事業所の主たる業種についてお答えください。

1. 農林・漁業 2. 鉱業, 採石業, 砂利採取業 3. 建設業 4. 製造業
 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 6. 情報通信業 7. 運輸業, 郵便業
 8. 卸売業, 小売業 9. 金融業, 保険業 10. 不動産業, 物品賃貸業
 11. 学術研究, 専門・技術サービス業 12. 宿泊業, 飲食サービス業
 13. 生活関連サービス業, 娯楽業 14. 教育, 学習支援業 15. 医療, 福祉
 16. 複合サービス事業 17. サービス業(他に分類されないもの) 18. 公務
 19. 上記以外 ()

主たる業種	回答数
3. 建設業	5
4. 製造業	43
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	1
6. 情報通信業	14
7. 運輸業、郵便業	2
8. 卸売業、小売業	5
9. 金融業、保険業	7
11. 学術研究、専門・技術サービス業	2
12. 宿泊業、飲食サービス業	1
13. 生活関連サービス業、娯楽業	1
15. 医療、福祉	1
17. サービス業(他に分類されないもの)	1
18. 公務	1
その他（放送業）	1
総計	85

II. 金沢大学卒業者・大学院修了者の評価, 本学に求めることなどをお伺いします。

問5 現在の金沢大学卒業者・大学院修了者の在職者数についてお答えください。

1. 0名 2. 5名以下 3. 6～10名 4. 11～25名 5. 26名以上

※「1.」と回答した場合は, 問8へお進みください。

現在の金沢大学卒業者・大学院修了者の在職者数	回答数
1. 0名	3
2. 5名以下	10
3. 6～10名	16
4. 11～25名	33
5. 26名以上	23
総計	85

問6 貴事業所における直近5ヶ年の金沢大学卒業者・大学院修了者に対する業務遂行上の満足度をお答えください。

1. 満足 2. ある程度満足 3. やや不満 4. 不満
5. 直近5ヶ年での金沢大学卒業者・大学院修了者がいない

満足度	回答数
1. 満足	58
2. ある程度満足	16
5. 直近5ヶ年での金沢大学卒業者・大学院修了者がいない	8
総計	82

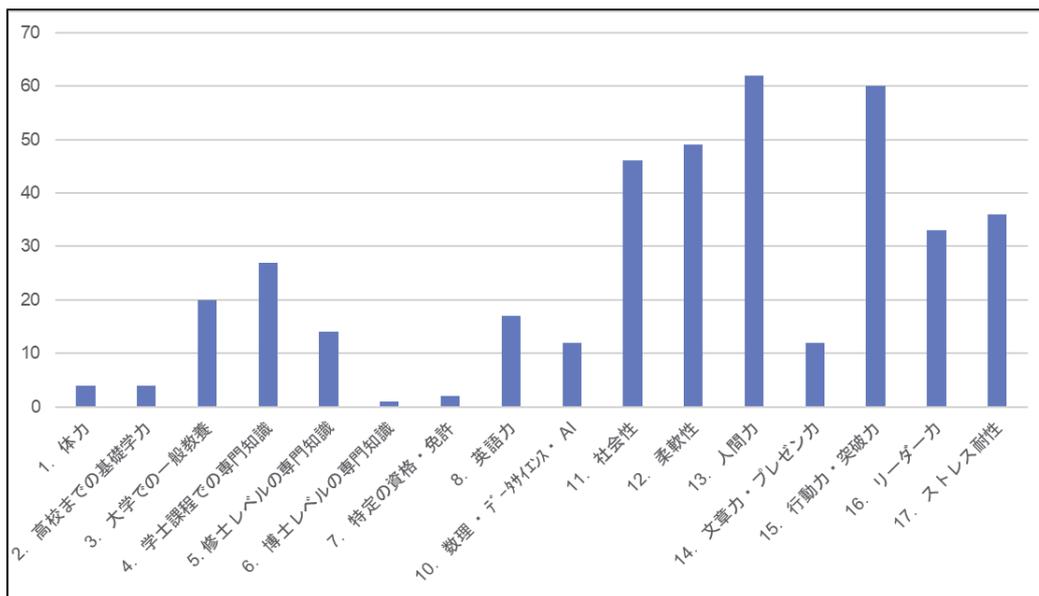
問7 金沢大学卒業者・大学院修了者は、現在担当している職務を遂行する上で必要とされる以下のような能力をどの程度身に付けているか、それぞれについてお答えください（必要としない能力は「必要としない」をお選びください）。

- A 大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能
 1. 身に付いている 2. ある程度身に付いている
 3. あまり身に付いていない 4. まったく身に付いていない 5. 必要としない
- B 社会や経済に関する幅広い一般教養的知識
- C 国際人として活躍するために必要な基礎的知識や英語力
- D 目標に向かってチームや集団を動かし、リーダーシップを発揮する能力
- E 他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力
- F 自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力
- G 世間の常識や既成概念にとらわれず、自ら情報を分析し、新しい考え方を提案する力
- H 適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力
- I 課題を解決できる思考力と判断力
- J 社会の問題や出来事に広く関心をもち、自分の携わる職業について将来を展望する力
- K 職業人として、生涯にわたり自己学習する力



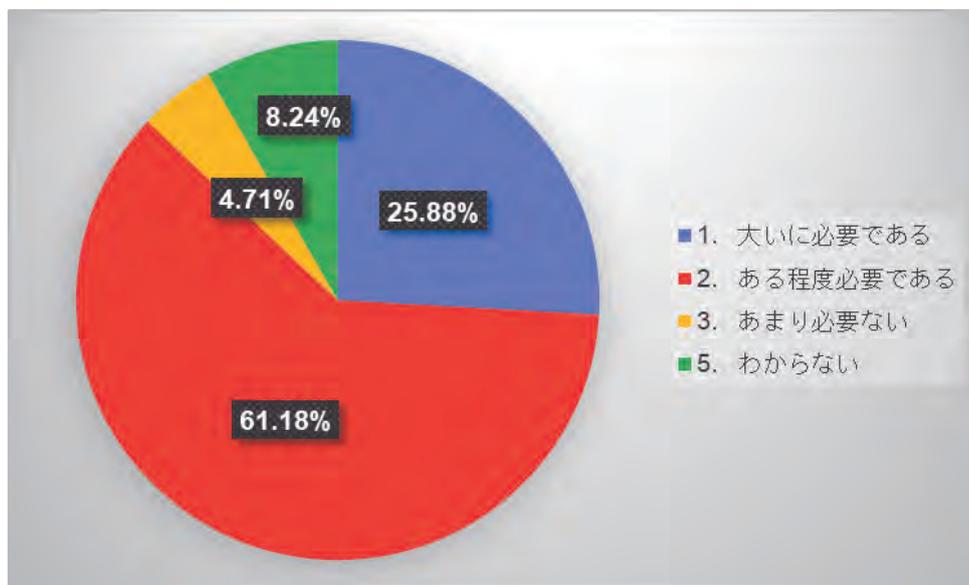
問8 今後、金沢大学は、学生に対してどのような資質・能力の育成の充実を図ることが望ましいと思いますか。最大5つまで選択ください。

- 1. 体力 2. 高校までの基礎学力 3. 大学での一般教養 4. 学士課程での専門知識
- 5. 修士レベルの専門知識 6. 博士レベルの専門知識 7. 特定の資格・免許
- 8. 英語力 9. 英語以外の語学 10. 数理・データサイエンス・AI 11. 社会性
- 12. 柔軟性 13. 人間力 14. 文章力・プレゼン力 15. 行動力・突破力
- 16. リーダー力 17. ストレス耐性



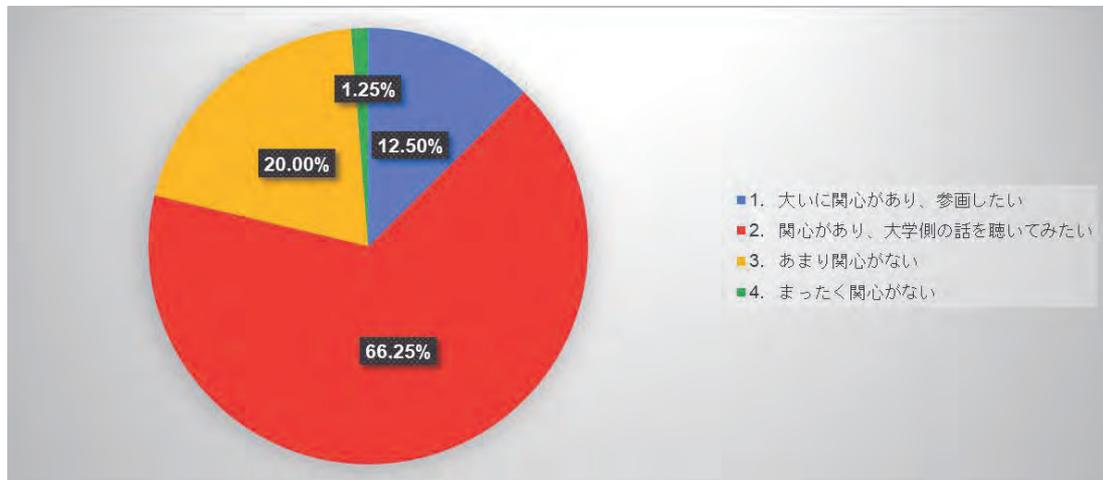
問9 文系・理系の枠にとらわれない文理融合・分野横断型教育（STEAM 教育）の必要性について、お答えください。

- 1. 大いに必要である 2. ある程度必要である
- 3. あまり必要ない 4. まったく必要ない 5. わからない



問 10 金沢大学が企業等と連携して授業科目開発に取り組んでいる「課題解決型学習」や「実践型インターンシップ」に対する貴事業所の関心度合について、お答えください。

1. 大いに関心があり、参画したい
2. 関心があり、大学側の話を聴いてみたい
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない



図表 II-7 令和4年度「就業先企業アンケート」結果概要

III

学位プログラムレベル



III 学位プログラムレベル

金沢大学では、令和3年度に教学マネジメントセンター設置以降、学位プログラムレベルの取組を重要視し、令和4年度において学士課程・大学院課程を通した3つのポリシーの体系的な再整備を行った。併せて、3つのポリシーを点検・評価する仕組みやDP（ディプロマ・ポリシー）達成度を可視化する仕組みを構築しながら、学位プログラム評価を強化することを目指している。

1. 3つのポリシーの体系的な再整備

【DP及びCPの記載に関する改善課題】

- (1) 中央教育審議会大学分科会大学教育部会『「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」の策定及び運用に関するガイドライン』（平成28年3月31日）（以下、『3つのポリシーに関するガイドライン』という）に沿ったディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）の作成が不十分な点が見られた。具体的には、DPで求められる「学生が身につけるべき資質・能力の目標」の明確化（「何ができるようになるか」の具体的に示すこと）の再確認が必要である点、CPで求められる主要3項目（「教育課程編成」「教育課程における学修方法・学修過程」「学修成果の評価」のあり方等を具体的に示すこと）のうち、「学修成果の評価」の記載が欠落している点であった。
- (2) 令和3年度機関別認証評価結果では、指摘された学域学類・研究科専攻において、授与する学位ごとにDP・CPが書き分けられていない点、CPで求められる「教育課程編成」または「教育課程における学修方法・学修過程」の具体的記載がない点の改善が求められた。

【再整備事項】

- (1) 『3つのポリシーに関するガイドライン』の趣旨に則り、各ポリシーの一貫性・整合性を考慮する観点から、新たに、当該学位プログラム単位の3つのポリシーに関するテンプレート（図表III-1参照）を提示し、その記載項目に沿って、3つのポリシーの該当項目の記載・見直しを行った。
- (2) 学類・専攻において、授与する学位が複数存在する部局にあつては、授与する学位ごとにテンプレートへの各ポリシー記載を行った。これにより、授与する学位に関する教育プログラム（学位プログラム）ごとに3つのポリシーを整理することが可能となった。
- (3) テンプレートへの各ポリシー記載について不明な点がある場合には、教学マネジメントセンターが相談対応し、適宜、必要なコンサルテーションを行った。

図表III-1 金沢大学「3つのポリシーテンプレート」

金沢大学「3つのポリシーテンプレート」		
【策定単位】●●学域（研究科）●●学類（専攻・コース）※DP・CP策定の最小単位ごとに別業で作成、かつ、授与する学位が複数存在する場合には授与する学位ごとに別業で作成ください。 【授与する学位】学士・修士・博士・専門職学位（●●）※カッコ内に専門分野を明記してください。		
大学（大学院）の目的 ※学則、大学院学則から引用		学類（研究科）の教育研究上の目的 ※学類規則、研究科規則から引用
ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】 本学〇〇学類【研究科】は、…といった人材【研究者、社会人、市民】を育成することが社会から期待されている。 そうした人材を育成するために、本学類【研究科】では、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、（かつ研究指導を受けた上で、）〇〇論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、〇〇の学位を授与する。	【教育課程編成に関する基本的考え方】 本学類【研究科】では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系的な構造を明示する。	【入学前受入れに関する基本的考え方（前文）】
【学生が身に付けるべき資質・能力】（※「学生が何ができるようになるか」を分かりやすく具体的に記述（シラバスの学修目標のような記載の仕方にも適する）） (1) ……できる能力。 (2) …… (3) …… (4) …… (5) …… ……	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】 1. 教育内容 (1) …… ●カリキュラムを通じた具体的な授業科目構成と教育内容を記載。 ●科目群では、～の内容を学ぶ、など 2. 教育方法 (1) …… ●教育修得目標を達成するために採用する具体的な教育方法を記載。 ●フィールドワークを重視している、など 【学修成果の評価】 (1) …… ●教育内容・教育方法に即した多様な評価方法を網羅的に記載。 ●各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。卒業研究の評価は●●によって行う。卒業時に質問紙調査を行っている、など	【求める人材】
		【選択の基本方針】
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】

【体系的な再整備を行う上での前提情報】

『3つのポリシーに関するガイドライン』に基づき、3つのポリシーの定義付けが明示され、かつ、3つのポリシーの公表が義務化された。なお、3つのポリシーの公表の義務化（根拠規定：学校教育法施行規則）については、学士課程は平成29年4月から、大学院課程については令和2年4月から適用されている。

『3つのポリシーに関するガイドライン』では、下表のとおり、各ポリシーの基本的な考え方を定義しつつ、3つのポリシーの一貫性・整合性に加え、それぞれのポリシーに書き込むべき項目が具体的に列挙されているので、それによって確認を行った。

図表III-2 3つのポリシーの基本的な考え方の定義

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。 ※（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(総論)

- 各大学における教育研究の特性を踏まえ、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一貫性・整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係を分かりやすく示し、大学内外に積極的に発信すること。
- 当該大学に関心を持つ様々な関係者(多様な入学希望者, 学生, 保護者, 高等学校関係者, 地域社会, 国際社会, 産業界等)が十分に理解できるような内容と表現とすること。

(ディプロマ・ポリシーについて)

- 各大学の教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化すること。
- 「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという方針をできる限り具体的に示すこと。その際、学士課程答申で示された「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」を踏まえるとともに、日本学術会議の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」等も参考とすることが考えられること。
- 学生の進路先等社会における顕在・潜在ニーズも十分に踏まえた上で策定すること。

(カリキュラム・ポリシーについて)

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等を具体的に示すこと。その際、能動的学修の充実等、大学教育の質的転換に向けた取組の充実を重視すること。
- 卒業認定・学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の様々な観点から検討を行うこと。特に、初年次教育については、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする観点から充実を図ること。

(アドミッション・ポリシーについて)

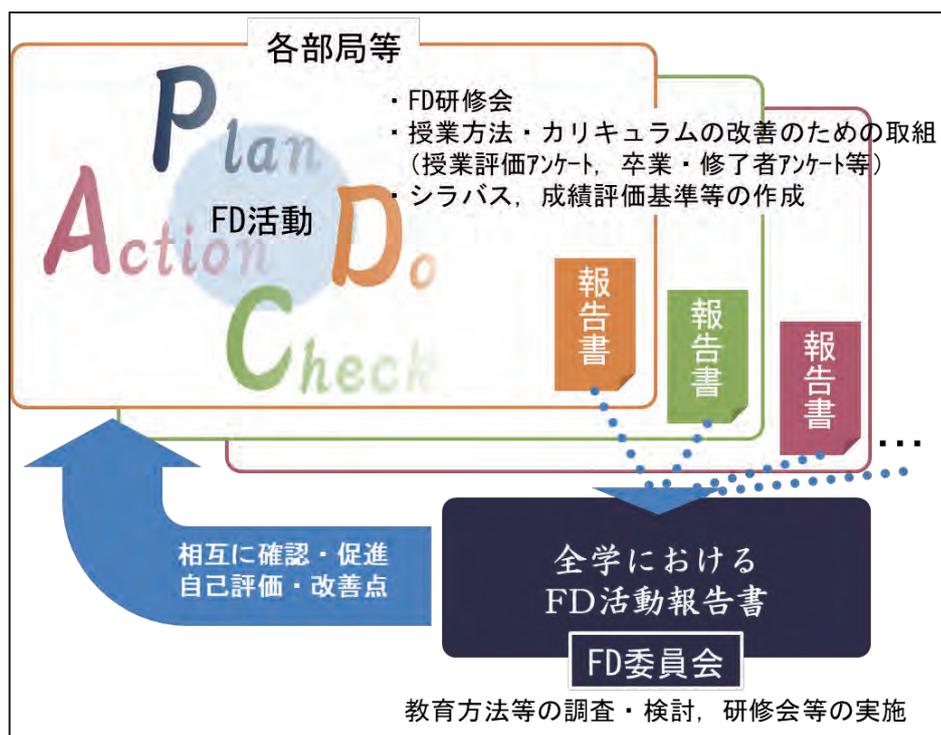
- ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえるとともに、「学力の3要素」を念頭に置き、入学前にどのような多様な能力をどのようにして身に付けてきた学生を求めているか、入学後にどのような能力をどのようにして身に付けられる学生を求めているかなど、多様な学生を評価できるような入学者選抜の在り方について、できる限り具体的に示すこと。また、必要に応じ、入学前に学習しておくことが期待される内容についても示すこと。
- 入学者選抜において、アドミッション・ポリシーを具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用するのか、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか等を具体的に示すこと。

2. 学位プログラムのモニタリング・レビュー

本学では、学位プログラムのモニタリングについては、FD委員会において毎年度作成する「FD活動報告書」を通して、卒業・修了者アンケート及び授業評価アンケートの結果等を参照したカリキュラム点検を行うことで対応している。

FD委員会は、平成20年度に「金沢大学におけるFD活動指針」をまとめた。同指針はFD活動が継続的かつ実質的に改善するために、FD活動をいわゆるPDCAサイクルの中に位置づけている。その一環としてFD委員会は各部局等が毎年度作成する報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（「FD活動報告書」）を作成することとした。FD活動報告書では、各部局等が当該年度の活動に対して行った自己評価のみならず、翌年度における改善に向けての取組み予定についてもまとめている。これらの点について他部局等の状況を相互に確認し、FD活動を相互に促進しあうことで、本学全体のFD活動が継続的かつ実質的に改善することが期待できる。

また、学位プログラムのレビューについては、教務委員会を中心に、3つのポリシーの点検・評価を行うことを通して対応している。



図表Ⅲ-3 金沢大学における教育改善サイクル概要

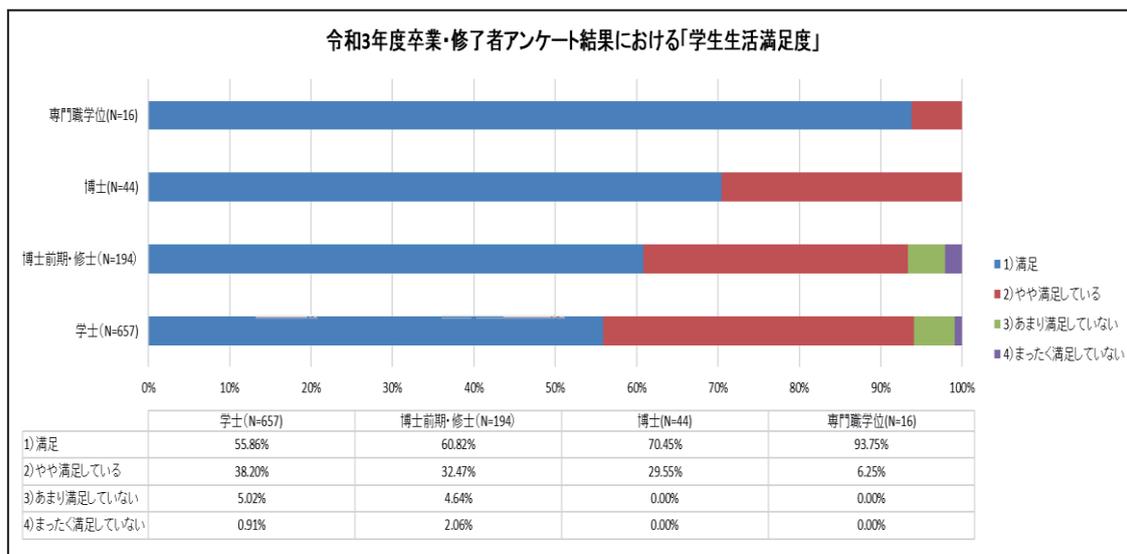
3. 卒業・修了者アンケート結果の概要

令和3年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。全般的に回答率の改善の必要性がある。特に、理工学域や自然科学研究科で減少している。

令和3年度卒業・修了者アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考)令和2年度回答率
【学士課程】		
人間社会学域	47.5%	49.9%
理工学域	21.9%	23.7%
医薬保健学域	41.8%	40.5%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	79.4%	63.2%
自然科学研究科	25.3%	27.7%
医薬保健学総合研究科	55.8%	55.3%
新学術創成研究科	5.6%	6.7%
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	71.4%	66.7%
自然科学研究科	8.9%	8.9%
医薬保健学総合研究科	61.4%	43.9%
先端予防医学研究科	66.7%	100.0%
【専門職学位課程】		
法学研究科	100.0%	100.0%
教職実践研究科	92.3%	100.0%

令和3年度卒業・修了者アンケートから全学共通で「学生生活満足度」の設問を4件法で設定することとなった。どの教育課程においても、概ね満足度が高い結果となっている。

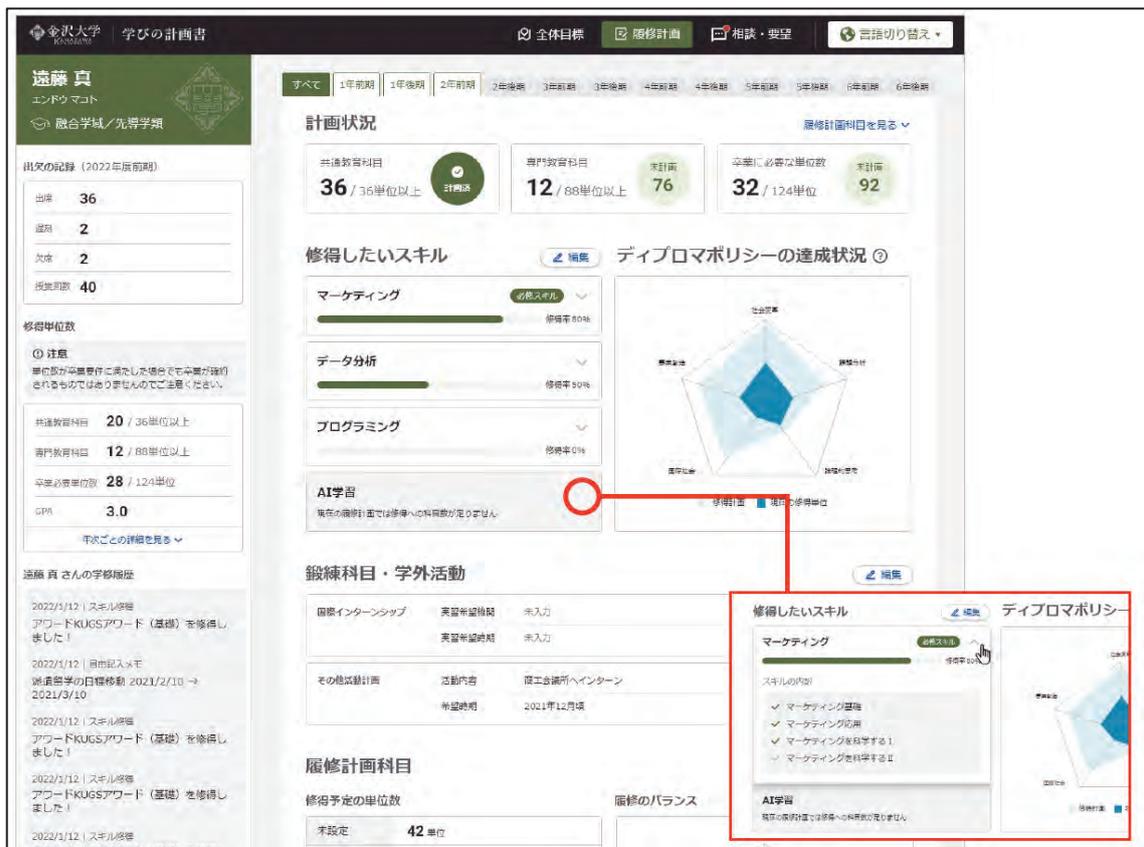


図表 III-4 令和3年度「卒業・修了者アンケート」結果概要

4. 「学びの計画書」を通じた DP 達成度可視化

令和 5 年度に向けて融合学域に導入した「学びの計画書」のシステム整備を進めており、DP 達成度のほか、特別プログラム等の履修実績等を一覧にて可視化する環境整備、さらには、就職活動等において、学生が自分自身の学修成果を説明するエビデンスとしてディプロマ・サプリメントを発行する環境整備を予定している。

また、令和 5 年度以降において、融合学域以外の他学域への当該システムの全学展開を検討している。



図表Ⅲ-5 システム整備した「学びの計画書」に関するイメージ画面

IV

授業科目レベル



IV 授業科目レベル

金沢大学では、授業科目レベルの基本となるシラバスの改善充実を徹底するとともに、授業評価アンケート結果に基づく授業改善及びカリキュラム改善のための FD 活動を習慣化している。令和 3 年度には、授業評価アンケートシステムの大幅な刷新を行い、教学マネジメントセンターにおいて回答結果を集計・分析しつつ、学域・研究科にフィードバックする教学マネジメントサイクルの構築を進めている。

1. シラバス記載項目の改善充実

『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会 2020）において、授業科目レベルの教学マネジメント中核として、シラバスのあり方が以下のとおり明確に記載されている。

新任教員研修会をはじめとして、シラバスの書き方に関する FD 活動、マニュアル作成は教育の質保証を図る上で欠かせない事項である。また、近年では、令和 2 年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち、「カリキュラム編成上の工夫の状況」として、シラバスに「準備学修に必要な学修時間の目安」を設定することが提示され、当該事項は、以下の『教学マネジメント指針』本文にも反映されている。

さらに、本学が令和 2 年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」において、授業科目シラバスの記載内容がチェックされており、改めて、本学のシラバス記載項目について、他大学の現状も参照しながら、点検及び改善を行う必要がある。

《『教学マネジメント指針』Ⅱ 授業科目・教育課程の編成・実施 p.20》

○ シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在である。米国では、教員と学生の契約書と理解されている例もある。単なる講義概要（コースカタログ）にとどまることなく、学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」における当該授業科目の位置付けや他の授業科目との関連性の説明、学生が事前準備のための学修や事後の発展的な学修を主体的に行う上での指針とすることができる事前・事後学修の指示を含み、授業の行程表として機能するとともに、「何を学び、身に付けることができるのか」（到達目標）を明確に定めることで適切な成績評価を実施するための基点としても機能するよう作成される必要がある。具体的には、

- 授業科目の目的と到達目標
- 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と授業科目の到達目標の関係
- 授業科目の内容と方法
- 授業科目の計画
- 成績評価基準
- 事前学修と事後学修の内容

等を盛り込む必要がある。なお、事前学修及び事後学修については、これらに必要な学修時間の目安を示すことも考えられる。また、到達目標の達成状況を定量的又は定性的な根拠に基づき評価することができるよう、到達目標を定めるに当たっては、例えば「学生は、～することができる」といった形式で記述することも考えられる。

【一部見直しした項目】

(1) 学修目標（到達目標）の項目の精選

現状において、「授業主題」「授業目標」「学生の学修目標」「学修成果」という項目が並んでいたが、「授業主題」に続く記載項目である「授業目標」「学生の学修目標」「学修成果」を「学修目標（到達目標）」に統合し、「授業主題」「学修目標（到達目標）」という記載項目の並びに整理した。具体的な記載方法については、記載例を示しながら、シラバス入稿要領にて周知徹底することとした。

「学修目標（到達目標）」に修正

授業目標

今現在学んでいる大学という組織に関心を深めることから、この大学での学習はスタートする。一体、大学は、どのような歴史を経て、どのような社会的影響を受けながら成り立っているのだろうか。大学は、それまで学んできた小・中・高等学校とは明らかに異なる。大学を構成する学生や教職員が多様であるだけでなく、大学が果たすべき使命や機能も非常に多様である。このような大学が持つ多様性や複雑性の醍醐味を学習を通して実感し、大学教育の機能について理解を深める。また、大学における学習者としての学生の位置付けを自覚するように努める。

学生の学修目標

金沢大学がどのような構成要素で成立しているかを説明することができる。
金沢大学の歴史や制度を理解し、大学教育の方向性を説明することができる。
金沢大学における学びの意義を説明することができる。

学修成果

- (1) 金沢大学を取り巻く社会情勢や国際情勢を判断し、現実を見つめる力（現状把握力・分析力・洞察力）を養う。
- (2) 主体的に大学教育の意義に関心を示し、積極的に意見を述べることができる。
- (3) 金沢大学生としてのアイデンティティを養う。
- (4) 大学が持つ多様性や複雑性を受容する力（柔軟性）を養う。
- (5) 学習プロセスにおいて、読解力・自己表現力・記述力を養う。

図表IV-1 シラバスにおける「学修目標（到達目標）」の記載項目整理

(2) 授業時間外の学修に関する指示における「必要な学修時間の目安」の明示

令和2年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち、「カリキュラム編成上の工夫の状況」として、シラバスに「準備学修に必要な学修時間の目安」を設定することが提示され、当該事項は、『教学マネジメント指針』本文にも反映されている。授業時間外の学修に関する指示（予習に関する指示、復習に関する指示）欄における「必要な学修時間の目安」の明示について、記載例を示しながら、シラバス入稿要領にて周知徹底することとした。

2. 授業評価アンケートシステムの刷新

2.1 新・授業評価アンケートの共通設問化について

全学での授業アンケート設問を可能な限り、共通項目化し、学生の回答負担を軽減することを考慮しながら以下の7項目を共通設問とした。

【共通設問項目】※授業評価アンケート回答画面にてシラバス検索画面を参照できるように設計。

① 授業内容の適切性

設問「この授業は、あらかじめシラバスに示された学修目標や授業計画に沿って行われましたか？」

② 担当教員の説明の仕方

設問「この授業における教員の説明の仕方は、分かりやすいものでしたか？」

③ 授業外学修時間

設問「この授業について、授業外学修（授業の予習・復習，レポート作成，試験勉強などを含む）をどれくらい行いましたか？ 総時間を平均し，授業 1 回あたりの時間に換算してお答えください。」

④ 授業理解度

設問「この授業の内容を，よく理解できましたか？」

⑤ 学修目標達成度

設問「この授業であなたは，シラバスに記載された学修目標を達成できましたか？」

⑥ 授業満足度

設問「この授業の内容は，満足できるものでしたか？」

⑦ 授業全般に関する自由記述

設問「この授業に関する感想や要望等があれば，具体的に記述してください。」

なお，上記の 7 設問以外に，やむを得ず，部局独自で設問したい場合には，学生が回答する際の煩雑さを極力避けたいため，部局独自設問は最小限となるように努めることとした。

2.2 新・授業評価アンケート導入に伴うシステム改修作業について

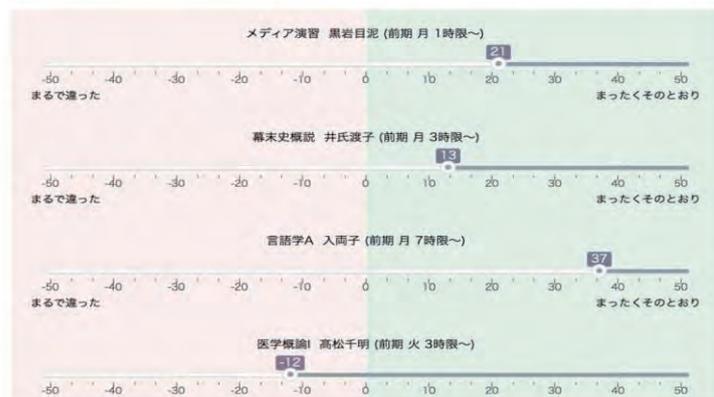
教育担当理事の指示に基づき，「お茶の水女子大学の授業アンケートシステム（nigala）」（図表IV - 2 参照）に関する情報収集を図るとともに，令和 3 年度第 2 回全学 FD 研修会において当該テーマを取り扱い，具体的検討を続けてきた。

教学マネジメントセンター，学術メディア創成センター，学務課が連携した検討の結果，「お茶の水女子大学の授業アンケートシステム（nigala）」を参考にしながら，本学独自の授業評価アンケート回答画面改修を行い，学務情報システムにて運用できるような措置をとることとし，具体的な改修作業に取り組み，令和 4 年度からの全学実施に漕ぎ着けた。

Web授業アンケートシステム nigala

Web授業アンケートの方法

-50～50までの101段階反応抽出・事実上の連続量アナログ尺度
設問ごとに各自の履修授業全体を相对比较
残り7問：この授業は学生の理解度を把握しながら進み、全体の内容は質、量ともに適切でよく理解できた。



連続量アナログ・自由評定尺度での回答抽出により
① 微妙に差異化された反応の相違が読み取れる
② 回答者に特有な反応傾性による差異を標準化できる

図表IV-2 お茶の水女子大学の授業アンケートシステム（nigala）
<https://crdeg5.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/enquete.html>

2.3 新・授業評価アンケートシステムによる回答概要

令和4年度から導入した新・授業評価アンケートシステムにより、学生はクォーターごとに履修している授業科目について、まとめて1回の授業評価アンケート回答で済む形式となったこと、また、授業評価アンケートを回答しないと当該クォーターの成績を閲覧できない設定としたことに伴い、下表のとおり、共通教育及び各学域での回答率が大幅に改善された。なお、令和4年度については、Q4期の回答〆切が3月末であるため、Q1～Q3期の回答データによる集計値である。

図表IV-3 授業評価アンケート回答率の推移

	令和2年度回答率	令和3年度回答率	令和4年度回答率 (※Q1～Q3回答データ)
共通教育	44.9%	37.0%	99.6%
融合学域	—	61.1%	98.5%
人間社会学域	16.6%	16.3%	96.7%
理工学域	13.8%	20.0%	69.0%
医薬保健学域	33.0%	27.7%	94.7%

共通設問化した項目については、教学マネジメントセンターにおいて全学統一で集計分析できる環境となった。共通設問①～⑥の項目に関する共通教育及び各学域の令和4年度Q1～Q3期の回答集計結果は下表のとおりである。設問①・②・④・⑤・⑥については、-50～50の101段階のスコア平均値であり、設問③については、授業1回あたりの授業外学修時間数の平均値である。

今後、来年度以降のデータを蓄積し、経年変化を把握・可視化しながら、授業・カリキュラム改善に活かしていくこととなる。

図表IV-4 新・授業評価アンケートシステムによる共通設問の回答結果概要

	回答数	①授業内容の適切性	②担当教員の説明の仕方	③授業外学修時間 (授業1回あたりの時間数)	④授業理解度	⑤学修目標達成度	⑥授業満足度
共通教育	57,792	32.4	28.7	3.5	27.6	27.2	27.9
融合学域	1,628	26.6	23.0	3.4	21.8	22.5	21.6
人間社会学域	20,229	30.2	27.9	4.3	25.6	24.9	27.3
理工学域	25,172	29.2	25.2	3.5	22.5	22.4	23.6
医薬保健学域	10,051	33.8	30.9	4.5	28.8	27.9	30.1



V

文理融合・分野横断教育
(STEAM 教育) に
関する意識調査

V 文理融合・分野横断教育 (STEAM教育) に関する意識調査

令和4年6月、内閣府 総合科学技術・イノベーション会議による『Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』が策定された。本政策パッケージでは、学校教育における探究学習から大学教育における文理融合・分野横断教育 (STEAM教育) を通して、科学技術・イノベーション人材に求められる「総合知」を育むグランドデザインが提示されている。

今後ますます、大学教育における文理融合・分野横断教育 (STEAM教育) の重要性が増すことが予想されるが、そのニーズ等に関する情報が不足しており、本学の学生・教員を対象としたアンケート調査を実施し、DP事業が進める文理融合・分野横断教育 (STEAM教育) の取組に活かしていくこととする。

《回答対象者》

すべての学域学生 (正規学生)、すべての専任教員 (特任教員を含む)

《回答者数》

学生版アンケート・・・473名 (6.1%)、教員版アンケート・・・177名 (14.2%)

《実施期間》

令和4年11月29日 (火) ~令和5年2月13日 (月)

《実施方法》

学務情報システムを通じたアンケート実施 (無記名)

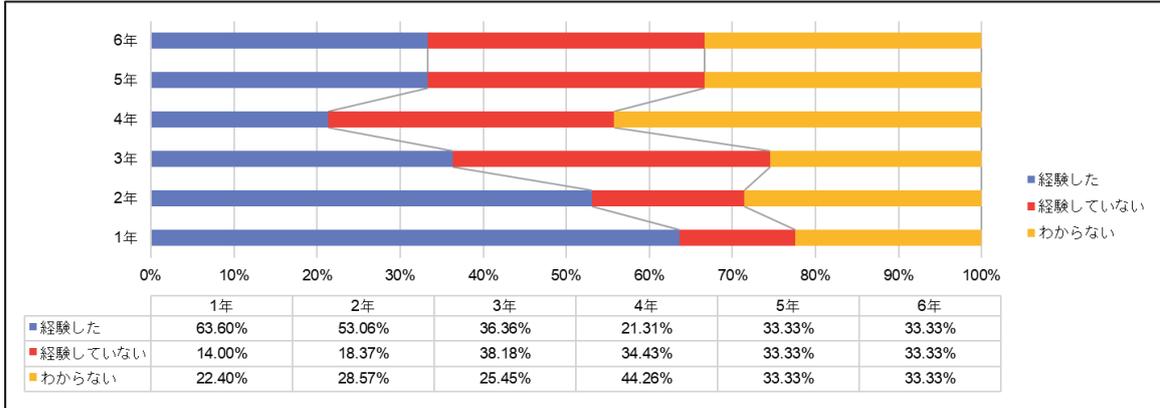
1. 意識調査 (学生版) 結果概要

Q1 所属, Q2 学年

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
融合学域・先導学類	18	11					29
融合学域・観光デザイン学類	3						3
人間社会学域・人文学類	23	15	7	4			49
人間社会学域・法学類	9	12	7	11			39
人間社会学域・経済学類	11	6		1			18
人間社会学域・学校教育学類	11	5	7	1			24
人間社会学域・地域創造学類	16	11	6	5			38
人間社会学域・国際学類	12	12	2	4			30
理工学域・数物科学類	4	2	5	4			15
理工学域・物質化学類	5	3		2			10
理工学域・3学類一括	39						39
理工学域・機械工学類		3	2	6			11
理工学域・電子情報通信学類		4	3	5			12
理工学域・フロンティア工学類		1	4	6			11
理工学域・地球社会基盤学類	15		3	4			22
理工学域・生命理工学類	10	1	5	4			20
医薬保健学域・医学類	7	1	1	1	2	2	14
医薬保健学域・医薬科学類	1	2					3
医薬保健学域・薬学類	6	2	2	1	1	1	13
医薬保健学域・創薬科学類			1	1			2
医薬保健学域・保健学類	38	7	1	3			49
総合教育部・文系	12						12
総合教育部・理系	10						10
総計	250	98	56	63	3	3	473

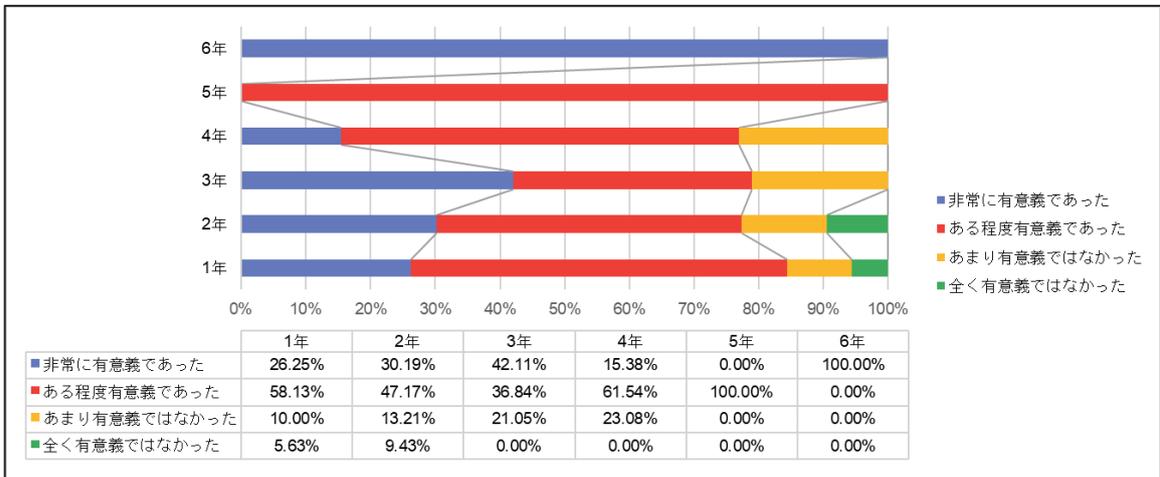
Q3 高校在学中に探究学習を経験しましたか。該当するものを一つだけ選んでください。

- 〔 ①経験した ②経験していない ③わからない 〕



Q4 Q3 で、「① 経験した」を選ばれた方のみにお聞きします。高校在学中の探究学習は有意義でしたか。該当するものを一つだけ選んでください。

- 〔 ①非常に有意義であった ②ある程度有意義であった
③あまり有意義ではなかった ④全く有意義ではなかった 〕

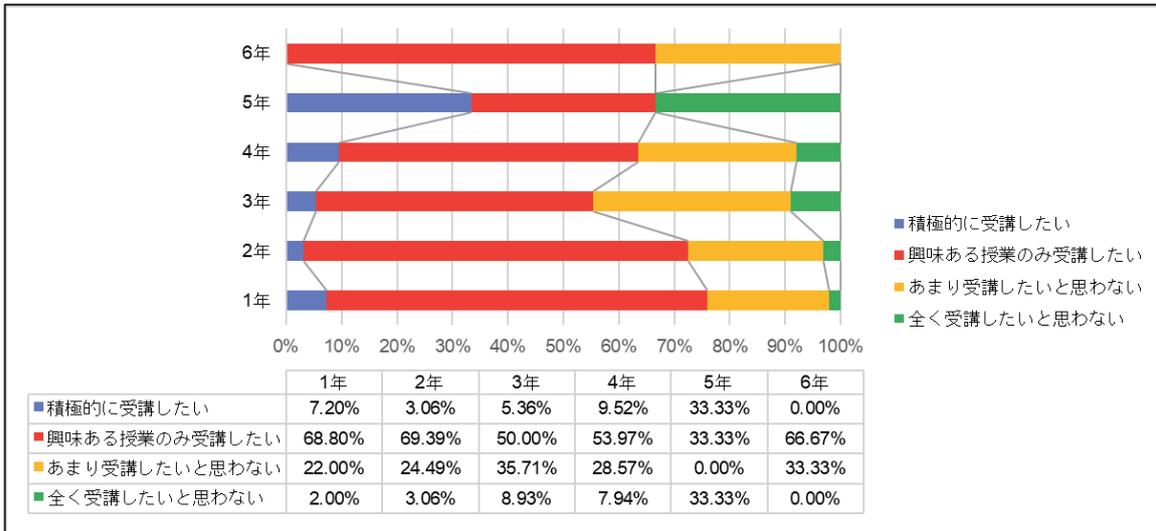


Q11 先導 STEAM 人材育成プログラム (通称: KU-STEAM) について、受講してみたいと思いますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) 紹介パンフレット URL】

https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/_kanri/wp-content/uploads/2022/03/d0147dfb04d7358c2e292d3e7eef499-1.pdf

- ①積極的に受講したい ②興味ある授業のみ受講したい
③あまり受講したいと思わない ④全く受講したいと思わない

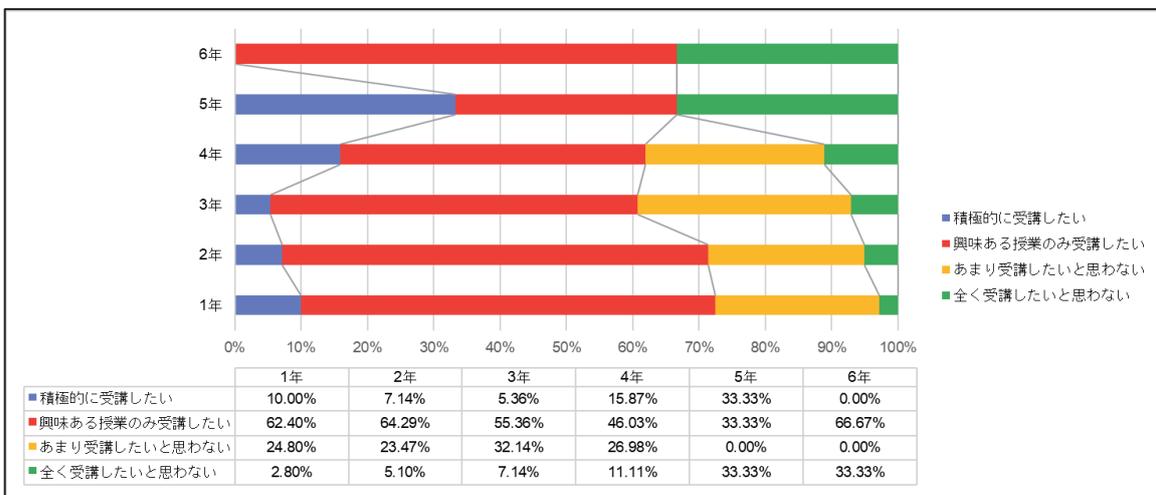


Q12 先導 STEAM 人材育成プログラム (通称: KU-STEAM) では、企業・自治体等と共に実社会の課題解決に取り組む課題解決学習型授業 (PBL) の実践演習や実践インターンシップを開講していますが、受講してみたいと思いますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) 紹介パンフレット URL】

https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/_kanri/wp-content/uploads/2022/03/d0147dfb04d7358c2e292d3e7eef499-1.pdf

- ①積極的に受講したい ②興味ある授業のみ受講したい
③あまり受講したいと思わない ④全く受講したいと思わない



図表 V-1 文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) 意識調査 (学生版) 回答結果 (抜粋)

2. 意識調査 (教員版) 結果概要

Q1 所属

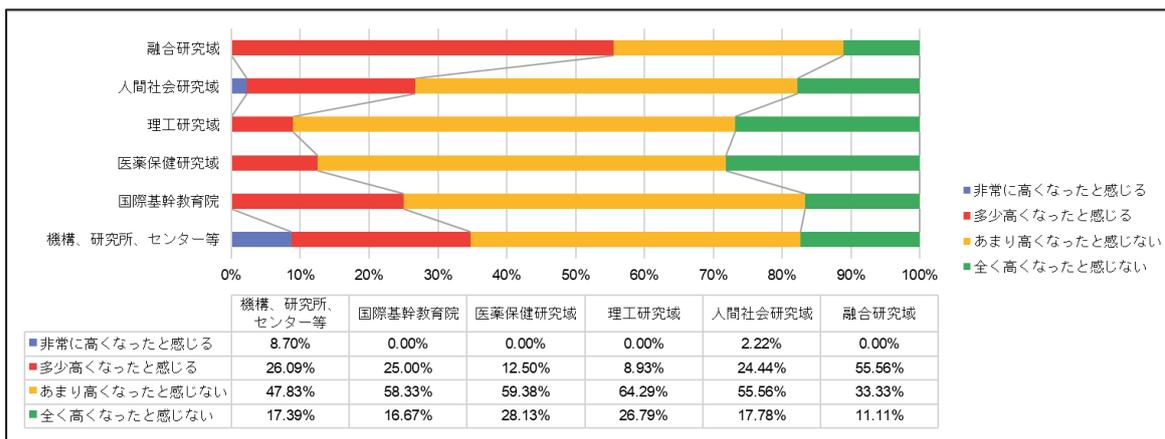
Q2 金沢大学での教育経験年数

- 1 2年未満 2 2年～5年未満 3 5年～10年未満
 4 10年～15年未満 5 15年以上

所属	金沢大学での教育経験年数					総計
	2年未満	2年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上	
融合研究域	2	1	1		5	9
人間社会研究域	1	2	10	7	25	45
理工研究域	5	4	8	10	29	56
医薬保健研究域	2	3	6	7	14	32
国際基幹教育院	3	2	3		4	12
機構、研究所、センター等	7	1	5		10	23
総計	20	13	33	24	87	177

Q5 近年, 入学してくる大学生は, 高校在学時に探究学習を経験するようになってきました。本学入学後の大学生の探究する力が高くなったと感じますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①非常に高くなったと感じる ②多少高くなったと感じる
 ③あまり高くなったと感じない ④全く高くなったと感じない

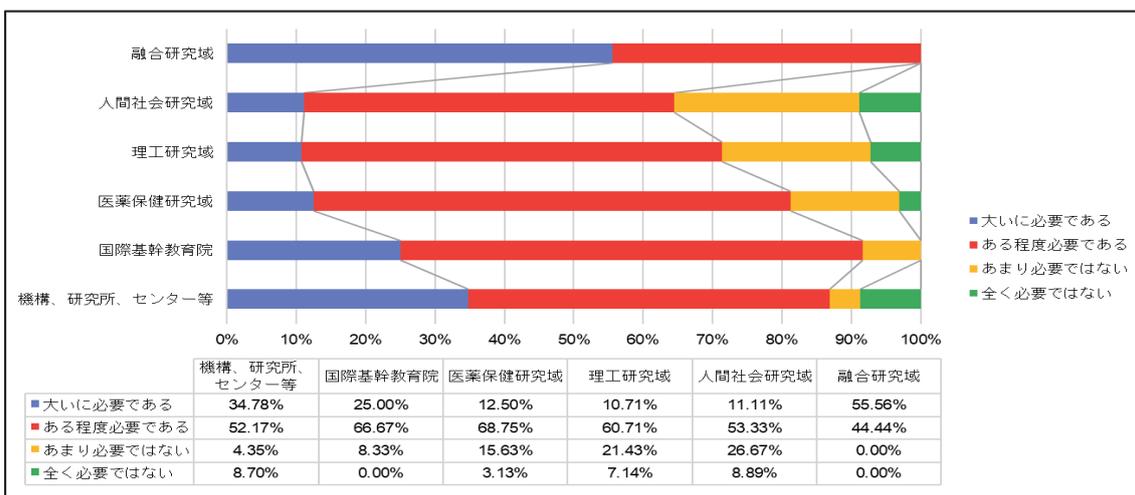


Q10 先導 STEAM 人材育成プログラム (通称: KU-STEAM) について, どのように感じますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) 紹介パンフレット URL】

https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/_kanri/wp-content/uploads/2022/03/d0147dfb04d7358c2e292d3e7e7eff499-1.pdf

- ①大いに必要である ②ある程度必要である
- ③あまり必要ではない ④全く必要ではない

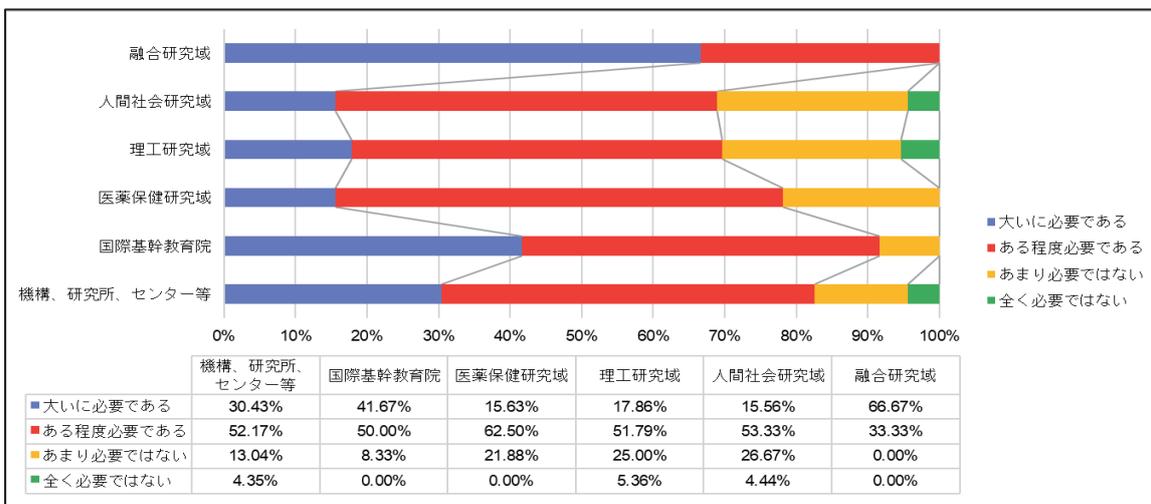


Q12 先導 STEAM 人材育成プログラム (通称: KU-STEAM) では, 企業・自治体等と共に実社会の課題解決に取り組む課題解決学習型授業 (PBL) や実践インターンシップを開講していますが, どのように感じますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) 紹介パンフレット URL】

https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/_kanri/wp-content/uploads/2022/03/d0147dfb04d7358c2e292d3e7e7eff499-1.pdf

- ①大いに必要である ②ある程度必要である
- ③あまり必要ではない ④全く必要ではない



図表 V-2 文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) 意識調査 (教員版) 回答結果 (抜粋)

3. 考察と展望

学生版調査結果については、1年次～3年次の学生の約8割が高校在学中に探究学習を経験していることが分かるが、そのうちの2割程度の学生が探究学習を有意義でないと感じている。

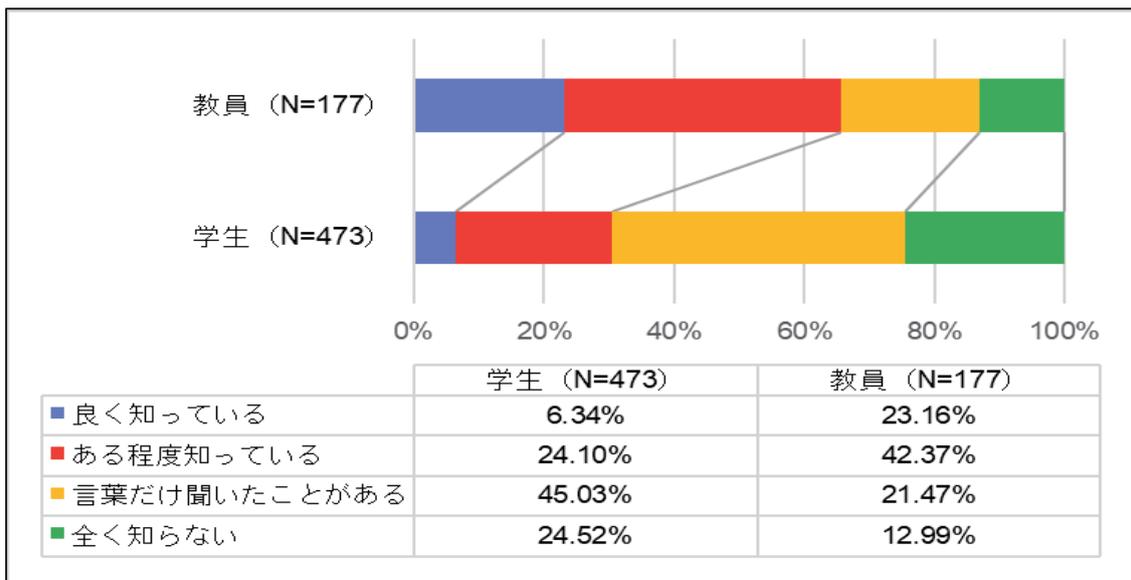
文系・理系の枠にとらわれない文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) を必要と考える学生は、1年次・2年次が高く、先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の受講希望も同様に1年次・2年次の割合が高い。一方において、先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の認知度が、「よく知っている」「ある程度知っている」層が少なく、1年次でも4割弱程度であり、今後の改善充実が求められる。

教員版調査結果については、融合学域において高校在学時の探究学習経験を通じた大学入学後の探究力の向上を感じる数値が顕著に高くなっている。文系・理系にとらわれない文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) の必要性、先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の必要性については、どの部局の教員も概ね必要性を感じている。先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の認知度については、部局による差が見られるが概ね2～3割程度の認知度であり、今後の改善充実が求められる。

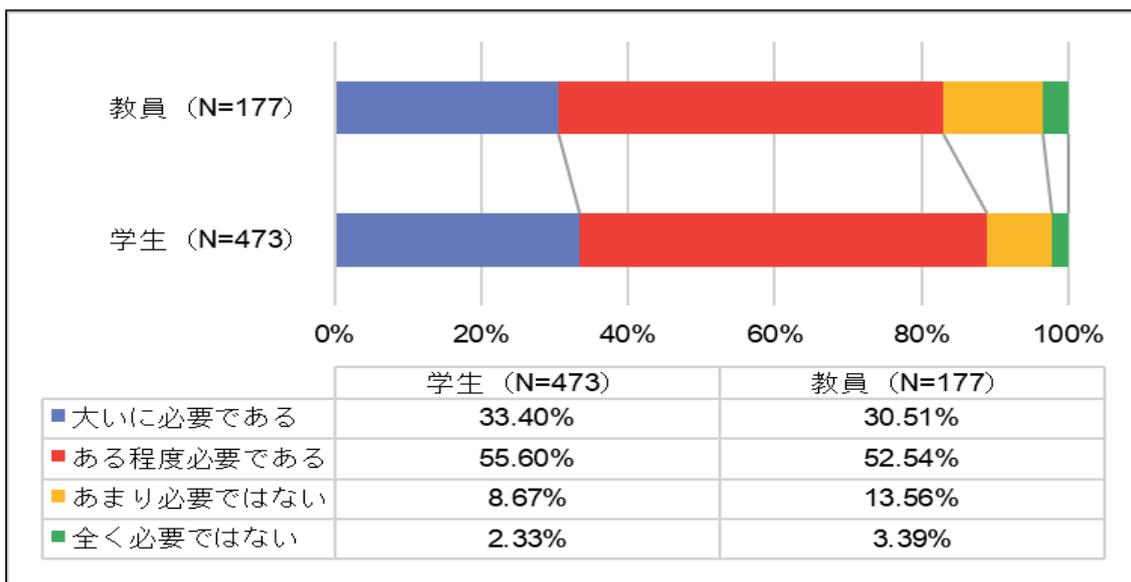
自由記述については、学生版・教員版ともに似通った傾向が見られ、今日の社会状況や人材育成の動向から、文理融合・分野横断の教育・学修を有意義と肯定的に捉える記述と、特定の専門知識・スキルを深く学ぶことが優先されるので文理融合・分野横断の教育・学修は広く薄い内容にならざるを得ないと否定的に捉える記述に分かれている。

以下、学生版と教員版の共通設問について比較対照した図表を添えておく。

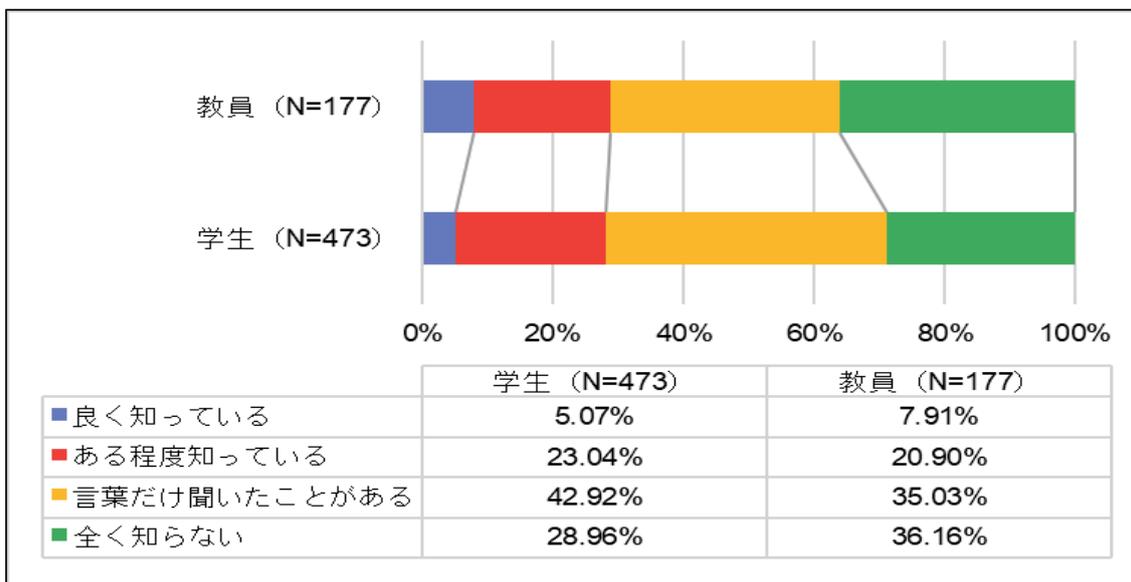
Q STEAM 教育という言葉を知っていますか。該当するものを一つだけ選んでください。



Q 文系・理系の枠にとらわれない文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) について、どのように考えていますか。該当するもの一つだけ選んでください。



Q 全学域学生対象に開講している先導 STEAM 人材育成プログラム (通称: KU-STEAM) について、知っていますか。該当するもの一つだけ選んでください。



図表 V-3 文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) 意識調査 (学生版・教員版) 共通設問に関する回答結果

VI

參考資料



VI 参考資料

『教学マネジメント指針』(中央教育審議会大学分科会)別紙2・3

別紙2

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報について

「Ⅲ 学修成果・教育成果の把握・可視化」関係

以下の表に掲げる情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするためのエビデンスとして使用可能な、学修成果・教育成果に関する情報である。

- これらの情報について、「卒業認定・学位授与の方針」の各項目にひも付けて整理し、分かりやすい形でもとめなおすことが考えられる(別紙1参照)。
- これらの情報や学生の学修履歴・活動履歴を体系的に蓄積・収集し、大学のみならず一人一人の学生が様々な形で自身が身に付けた資質・能力のエビデンスとして活用できるようにするために、学修ポートフォリオの利活用が効果的に機能するものと考えられる。また、学修ポートフォリオに蓄積された学修成果・教育成果に関する情報をエビデンスとして用いて、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得状況を評価することも考えられる。
- なお、これらの情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報として考えられるものであってもよい。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、これらの情報(特に(2)に分類されたもの)の収集の必要性・重要性は異なるものと考えられる。
- 本表を参考としつつ、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で、学位プログラムその内容やその学修目標に合った学修成果・教育成果の把握・可視化や、そのために必要な情報の策定・開発が進められることが期待される。

(1) 大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において学内で収集可能と考えられるものの例

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
各授業科目における到達目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて設定された個々の授業科目の到達目標をどの程度の水準で達成できているかを明らかにする 学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得してゆく過程を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が単位を修得した授業科目に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 授業科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評定の分布状況 学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け 個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 (これらを組み合わせて分析することで、学生が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力をどの程度満たしているかを一定程度説明することができる。) 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスの収集 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
学位の取得状況	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、個々の授業科目の履修の結果として、「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が取得した学位に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 学位の名称、学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力及び当該学生が属する学位プログラムにおいて当該学位を取得するために要する平均年数 学生が学位取得に要した年数及び上記平均年数との比較 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与履歴を収集
学生の成長実感・満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けているかを等に関する学生の主観的な評価を明らかにする 大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の平均値 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する個々の学生の主観的な評価 	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法									
<p>進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学が、進学や就職等を希望する学生に対して進路を保証できているかを明らかにする ・大学が「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される人材育成を行っているか否かを、進学先の大学院や就職先の企業等における評価と対照することを通じて明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の進路（進学、就職等）に対する希望状況 ・学位プログラム修了者の進路（進学先や就職先等）及びその全体状況（修了者の総数を分母とする進路毎の割合等） ・特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある場合には、実際の進路動向との一致の程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 ・「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析 									
<p>修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合（標準年限期間内に学位を取得していない者については、取得に至っていない原因毎の数と割合） ・ある学位プログラムにおいて学位を取得するために要する平均年数 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与履歴を収集 									
<p>学修時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の時間及び平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が授業内外それぞれでの学修に費やした時間の平均値 (①) 及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間の平均値 (②) ・個々の学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間数 (③) 及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間 (④) ・上記①及び②、①及び③並びに③及び④の比較 <p><参考></p> <table border="1" data-bbox="901 741 992 1279"> <thead> <tr> <th></th> <th>全体</th> <th>個人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実測時間</td> <td>① (平均値)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>想定時間</td> <td>② (平均値)</td> <td>④</td> </tr> </tbody> </table>		全体	個人	実測時間	① (平均値)	③	想定時間	② (平均値)	④	<ul style="list-style-type: none"> ・学生へのアンケート調査を通じた収集 (※) 今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学修時間の集計単位：1時間単位での把握 ・集計期間の選定：試験直前期や長期休暇期間などを除く平均的な一週間ににおける学修時間 (※) 学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・教育成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
	全体	個人										
実測時間	① (平均値)	③										
想定時間	② (平均値)	④										

(2) 教学マネジメントを行う上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
<p>卒業認定・学位授与の方針に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目における到達目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の科目により直接的に評価することができるものをどの程度の水準で備えているかを明らかにする ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち左記の科目により直接的に評価することができるものを獲得してゆく過程を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が単位を修得した左記の授業科目に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評価の分布状況 ・学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ・個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 ・左記の資質・能力の取得状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
<p>卒業論文・卒業研究の水準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けることができるかを明らかにする ・専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文・卒業研究に対する評定により直接的に測定することができる「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る資質・能力 ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定の分布状況 ・個々の学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定活動を通じて、「卒業論文・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な教育に係る資質・能力以外の資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力の達成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力との関係の整理 ・卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評定(例えば、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力を中心として、これらに関連するルーブリック等を用いて評価したものと) (※成果物に対する評定に加え、卒業論文作成・卒業研究実施の過程に対し適切に評価することも重要。)
<p>アセスメントテストの結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該アセスメントテストにより測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けていることができるかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントテストにより測定することができる資質・能力 ・上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係(アセスメントテストにより測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等) ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・個々の学生のアセスメントテストの受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト(学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト)の特定 ・大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集 (※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するためにアセスメントテストを利用する場合、大学は、当該テストの目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。)

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
<p>語学力検定等の学外試験のスコア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該試験により測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けていることができるからにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学外試験により測定することができる資質・能力 ・上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（学外試験により測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・個々の学生の学外試験の受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの状況やその結果を大学として把握すべき学外試験)の特長 ・大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集 (※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するために学外試験を利用する場合、大学は、当該試験の目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。)
<p>資格取得や受賞、表彰歴等の状況</p>	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の取得により証明される資質・能力 ・上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生における資格取得の状況 ・個々の学生の資格取得の状況 <p><受賞、表彰歴等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞、表彰等により証明される資質・能力 ・上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生のそれぞれの受賞・表彰等の状況 ・個々の学生の受賞・表彰等の状況 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の取得により証明される資質・能力 ・上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの状況やその結果を大学として把握すべき資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特長 ・上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <受賞、表彰歴等の状況> ・受賞、表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの状況や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの状況やその結果を大学として把握すべき資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特長 ・上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <受賞、表彰歴等の状況> ・受賞、表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの状況や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
<p>卒業生に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、実際の卒業生に対する雇用主や進学の指導教員からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の雇用主や進学の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
<p>卒業生からの評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役に立っているかを、進学・就職から一定期間経過した卒業生からの評価により明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が、学位プログラムを通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を習得することができたか ・進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役に立っているかについての、卒業生からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

「V 情報公表」関係

情報公表について

別紙3

以下の表に掲げる情報は、大学における学修成果や教育成果、これらを保証する条件に関する情報として公表する意義があるものと考えられる情報であり、(1)「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例」と(2)「学修成果・教育成果を確保する条件に関する情報の例」の2項目について、それぞれ①「大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの」と②「教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報」に分類している。

これらの情報は、公表が考えられるものをあくまで例として示したものである。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、特に②の情報の収集・公表の必要性・重要性は異なるものと考えられる。

これらの項目も参考として、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で情報公表が進められることが期待される。

これらの情報のうち、特に(1)①に分類されるものについては、社会からその公表が強く期待されている学修成果・教育成果に関係するものであることから、早期に情報公表が進められることが強く期待される。

情報の公表に当たっては、利用者が適切に情報を取り扱うことができるようにする観点から、大学として理解を促進するための適切な分析や解説を、その根拠と併せて付するとともに、利用者の便宜に配慮した方法で行うことが求められる。

以下、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第1号)を「規則」、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)を「基準」とそれぞれ略記する。

(1)「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
① 大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得し、ゆく過程について、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属する学生の単位修得に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 入学年度別・年度毎の平均履修単位数(※) 入学年度別・年度毎の平均修得単位数(※) (※)必修科目、選択科目及び自由科目で細分化することも考えられる。 (学修時間や学事歴の柔軟化の状況、履修単位の登録上限設定の状況、GPAの活用状況と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：基準第32条 	<ul style="list-style-type: none"> 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
学位の取得状況	<ul style="list-style-type: none"> 個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えた学生が何人卒業しているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムが授与した学位の名称と授与者の数 当該学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力 関連する法令等：規則第172条の2第1項第1号、第4号及び第6号 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与履歴を収集
学生の成長実感・満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けているか等に関する学生の主観的な評価について、全体的な状況を明らかにする 大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に對する主観的な評価の年度毎の平均値及び分布その他の全体的な状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）	<ul style="list-style-type: none"> 進学や就職等を希望する学生の進路状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎の以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 就職を希望した学生数を分母とする就職者の割合 学生の主な就職先 進学を希望した学生数を分母とする進学者の割合 学生の主な進学先 特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある学位プログラムにおいては、当該プログラムの卒業生数を分母とする当該進路への就職者の割合及び主な就職先（卒業生に対する評価や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益） 関連する法令等：規則第172条の2第1項第4号 関連する調査等：「大学等卒業者の就職状況調査」 	<ul style="list-style-type: none"> 進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析
修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率	<ul style="list-style-type: none"> 厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする 履修単位の登録上限設定の状況やGPAの活用状況と組み合わせることで、大学が、密度の高い学修を可能とする環境を提供していることや、厳格な成績評価に基づく質の高い教育を提供していることを示すことができる重要な情報の一つとなる 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合（公表の際には、単にこれらの情報のみを公表するのではなく、学位プログラムのカリキュラムの在り方や、履修単位の登録上限設定の状況、GPAの活用状況、留学の位置づけといった修業期間・成績評価に関連する情報や、積極的な進路変更（他大学への転学や他学部への転部など）の有無、退学の理由（大学に起因するものと大学に起因しないもの）の別など）も踏まえた分析を付することが望ましい。） 関連する法令等：規則第172条の2第1項第4号 関連する調査等：「学校基本調査」¹⁾ 	<ul style="list-style-type: none"> 教務履歴や学校基本調査の調査過程において収集
学修時間	<ul style="list-style-type: none"> 単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けて、学修するための一般的な前提条件を満たしているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が、当該学位プログラムに関連する授業内外それぞれの学修に費やした時間の平均値及び分布その他の全体的な状況（各授業科目における到達目標の達成状況や履修単位の登録上限設定の状況と併せて分析を行い、公表することが有益） 関連する法令等：基準第21条 	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集 (※) 今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> 学修時間の集計単位：1時間単位での把握 集計期間の選定：試験直前前や長期休暇期間などを除く平均的な一週間ににおける学修時間 (※) 学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・教育成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集

¹ 「平成30年度大学等卒業者の就職状況調査（4月1日現在）」 https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/05/1416816.htm

² https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
資格取得や受賞、表彰等の状況	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該資格の取得のために求められる資質・能力を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合、学生が、当該資質・能力の一部を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする <p><受賞、表彰等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該受賞、表彰等のために求められる資質・能力を高い水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における資格取得者の人数 <p><受賞、表彰等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞、表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における受賞者・表彰者等の人数や具体的な例 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得により証明することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができることのできる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特定 ・上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <p><受賞、表彰等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の賞や表彰制度等の受賞や表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができることのできる賞や表彰制度等の特定 ・上記の賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
卒業生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・進学先の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、卒業生に対する雇用主や進学先の指導教員からの評価やその代表例、その他の全体的な状況（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の雇用主や進学先の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
卒業生からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのようなように役立っているかについて、全体的な状況を、進学・就職から一定期間経過した卒業生からの評価により明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得にあたって学位プログラムが果たした役割について、卒業生からの評価 ・進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役立っているかについての、卒業生からの評価（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生に対する評価と併せて分析を行い、公表することが有益） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

(2) 学修成果・教育成果を保證する条件に関する情報の例

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
<p>入学者選抜の状況</p>	<p>・入学者選抜の方法の明示や試験問題及び解答の公表により、「入学者受入れの方針」に即し、大学として求める資質・能力を有する者を入学者として適切に選抜していることを明らかにする</p> <p>・入学者選抜の方法や合否判定の方法・基準等を明示すること、公正かつ妥当な方法により、多面的かつ総合的な評価・判定に基づき入学者選抜を実施していることを明らかにする</p>	<p>・各学位プログラムにおける個別学力検査の実施教科・科目、入試方法、その他入学者選抜に関する基本的な事項</p> <p>・合否判定の方法や基準</p> <p>・試験問題及びその解答</p> <p>・入試方法の区分に応じた受験者数、合格者数及び入学者数等</p> <p>(各年度における「大学入学選抜実施要項³⁾」に基づく公表を実施すること。) </p>	<p>・入試情報の収集</p>
<p>教員一人あたりの学生数</p>	<p>・学生数に対して十分な教員を確保することで、密度の濃い授業や丁寧な履修指導が可能な環境であることを明らかにする</p>	<p>・大学全体としての教員と在籍する学生の人数比</p> <p>・学位プログラム毎の、専任教員と在籍する学生の人数比。(公表の際は、単に人数比を公表するのではなく、クラスサイズや専任教員以外の教員・TA(ティーチング・アシスタント)・RA(リサーチ・アシスタント)等の活用状況などを踏まえた分析を付することが望ましい。)</p> <p>関連する法令等：規則第172条の2第1項第3号</p> <p>関連する調査等：「学校基本調査」</p>	<p>・人事記録等(学校基本調査を活用することも考えられる)</p>
<p>学事層の柔軟化の状況</p>	<p>・入学・卒業時期の選択や自由度を明らかにすることで、密度の濃い主体的な学修が可能な環境や、留学等との接続が容易な環境であることを明らかにする</p>	<p>・大学としての学事層の状況(具体的な授業期間など)(学位プログラムにより異なる場合は学位プログラム毎の状況)</p> <p>(各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益)</p>	<p>・学事層に関する学内規定の確認</p>
<p>履修単位の登録上限設定の状況</p>	<p>・履修単位の登録上限に関する制限やその例外を明らかにすることで、大学が、密度の濃い主体的な学修を可能としつつ、意欲・能力のある学生には更なる学修を可能とする環境を提供していることを明らかにする</p>	<p>・履修単位の登録上限制度の有無</p> <p>・制度の具体的な内容(上限単位数など)</p> <p>・例外的な具体的な要件(成績要件と追加登録が可能な単位数など)</p> <p>(各授業科目における到達目標の達成状況や学修時間と併せて分析を行い、公表することが有益)</p> <p>関連する法令等：基準第27条の2</p>	<p>・学内規定の確認</p>
<p>授業の方法や内容・授業計画(シラバスの内容)</p>	<p>・学生と教員との契約書ともいえるシラバスについて、適切な到達目標や講義方法、講義計画、成績評価基準を定めると共に、学生の主体的な学びを助ける事前事後学修課題を提示することで、大学が、個々の授業科目を「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて適切に設計していることを明らかにする</p>	<p>・大学としてのシラバス作成に関する方針(どのような項目をどのような観点から記載しているかを説明するもの)</p> <p>・個々の授業科目のシラバス(特に必修科目や選択科目については、可能な範囲で学位プログラム毎に編集されることが望ましい)</p> <p>(カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益)</p> <p>関連する法令等：規則第172条の2第1項第5号、基準第25条の2第1項</p>	<p>・学内におけるシラバス作成に関する方針の確認</p> <p>・電子シラバスへの登録等を通じたシラバスの収集</p>
<p>早期卒業や大学院への飛び入学の状況</p>	<p>・意欲や能力を備えた学生の多様な学修ニーズに対応できる選択肢が複数存在することを明らかにすると共に、当該選択肢の活用状況を明らかにする</p>	<p>・早期卒業及び大学院への飛び入学に関する要件</p> <p>・学位プログラム毎の早期卒業者・大学院への飛び入学者の人数及び割合</p>	<p>・早期卒業及び大学院への飛び入学に関する学内規定の確認</p> <p>・教務履歴の収集</p>

①大学の教育活動に伴う基本的な情報であつて全ての大学において収集可能と考えられるもの

³⁾ 「令和2年度大学入学選抜実施要項について(通知)」 (https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/icsFiles/afie/fieldfile/2019/06/05/1282953_001_1_1.pdf)

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
<p>FD・SDの実施状況</p>	<p>・「卒業認定・学位授与の方針」に基づき教育の成果を最大化するため、当該方針に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義し、これを踏まえて最適なFD・SDを実施していることを明らかにする</p>	<p>・「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像</p> <p>・大学として実施しているFD・SDの内容（対象別の内容や頻度、参加率（どのような立場の者がどのような内容のFD・SDに参加したかが分かることが望ましい）など）</p> <p>・他大学や教育関係共同利用拠点との連携等によりFD・SDを実施している場合は、連携して実施するFD・SDの概要（連携先の名称や、FD・SDの内容、頻度など）</p> <p>・FD・SDを担当する組織・部局を有する場合は、その概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど）</p> <p>関連する法令等：基準第25条の3、第42条の3</p> <p>関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」⁴</p>	<p>・FD・SDの内容の収集</p>
<p>GPAの活用状況</p>	<p>・学位プログラム毎に、所属する学生それぞれのGPAの平均値等を明らかにすることで、学生が各授業科目に定められた到達目標に全体的にどの程度到達しているかという学位プログラムの全体的な教育の達成状況を明らかにする</p> <p>・GPAを、留年や退学の勧告等の基準や、履修指導・学修支援のための基礎情報として用いていることを明らかにすることで、「卒業認定・学位授与の方針」に基づき、質の高い教育を提供していることを明らかにする</p>	<p>・大学全体としてのGPAの算定方法（評語とGPAとの対応関係や、不可となった科目や履修登録を取り消した科目の扱い、など）</p> <p>・学位プログラム毎のGPAの平均値及び分布（入学年度や学期などの観点から分類した数値も併せて公表することが望ましい）</p> <p>・GPAの活用状況（以下のような活動等の判断基準としてGPAを用いているか否か）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対する個別の学修指導 ・奨学金や授業料免除対象者の選定 ・履修上限単位制限の解除 ・進級・卒業判定、退学勧告 ・大学院入試の選抜 ・早期卒業や大学院への早期入学 <p>（各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益）</p> <p>関連する法令等：規則第172条の2第1項第6号</p> <p>関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」</p>	<p>・GPAの算定方法に関する学内規定の確認</p> <p>・教務履歴などより収集</p>
<p>カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの活用状況</p>	<p>・「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえたカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを明らかにすることで、各学位プログラムが、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を構成していることを明らかにする</p>	<p>・学位プログラム毎のカリキュラムマップ・カリキュラムツリー（※）</p> <p>（※）カリキュラムマップやカリキュラムツリー以外の方法で、学位プログラムのカリキュラムにおいて、「卒業認定・学位授与の方針」との関係で過不足なく科目が配置されていることを検証している場合は、当該方法。</p> <p>（授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益）</p> <p>関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」</p>	<p>・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー等の収集</p>

② 教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報

⁴ 「大学における教育内容等の改革状況について（平成28年度）」 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/dai.gaku/04052801/1417336.htm

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
ナンバリングの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 大学が、ナンバリングの実施を通じて、学位プログラムを構成する個々の授業科目の教育課程上の水準や学位プログラム全体の体系的な整理された適切なカリキュラムを編成するための取組を行わっていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としてのナンバリングに関する方針（どのような分類基準に基づいてナンバリングを実施しているかを説明するもの） 学位プログラム毎のナンバリングを行った授業科目一覧（授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況との関係も併せて公表することが有益） 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としてのナンバリングに関する方針の確認 ナンバリング済みの授業科目一覧の収集
教員の業績評価の状況	<ul style="list-style-type: none"> 大学が、研究活動のみならず教育活動における業績を評価する仕組みを整え、教員が積極的に教育活動や教育改善に取り組む意欲を持つことができる環境を整えていることを明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての教員の業績評価に関する方針など 関連する法令等：規則第172条の2第1項第3号 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての教員の業績評価に関する方針の確認
教学IRの整備状況	<ul style="list-style-type: none"> 教学マネジメントの基礎となる情報を収集する上で基盤となる教学IRについて適切な制度整備や人材育成を行っていることを明らかにすることで、教学マネジメントを行う体制を整えていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学として実施している教学IRの主な内容（分析事例の紹介や、教学IRをきっかけとする教学改善の事例の紹介など） 教学IRを担当する組織・部局の概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど） 教学IRに関する学内規則 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」 	<ul style="list-style-type: none"> 教学IRの主な内容の収集



金沢大学 教学マネジメント FACTBOOK 2022

発行 : 金沢大学 教学マネジメントセンター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
2023年3月 発行
